

管理クイックスタート

Novell. ZENworks® 10 Configuration Management SP3

10.3

2010年3月30日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2010 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複製転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	7
1 管理クイックリスト	9
1.1 ゾーン設定	9
1.2 ZENworks Adaptive Agent の展開	10
1.3 デバイス管理	11
1.4 システムメッセージおよびレポート	13
2 管理ツールクイックビュー	15
2.1 ZENworks コントロールセンター	15
2.1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス	15
2.1.2 ZENworks コントロールセンターの操作	16
2.2 zman コマンドラインユーティリティ	17
2.2.1 ディレクトリ	17
2.2.2 構文	17
2.2.3 コマンドのヘルプ	18
2.3 zac コマンドラインユーティリティ	18
2.3.1 ディレクトリ	18
2.3.2 構文	18
2.3.3 コマンドのヘルプ	19
3 ゾーン設定	21
3.1 デバイスの構成：フォルダとグループ	21
3.1.1 フォルダ	21
3.1.2 グループ	24
3.1.3 フォルダおよびグループの割り当ての継承	27
3.2 デバイスを登録する	27
3.2.1 登録キー	28
3.2.2 登録ルール	30
3.2.3 デバイス命名テンプレート	32
3.2.4 その他の情報の参照場所	34
3.3 ユーザソースへの接続	34
3.4 ZENworks 管理者アカウントの作成	36
3.5 環境設定の変更	38
3.5.1 ゾーンでの環境設定の変更	39
3.5.2 フォルダでの環境設定の変更	40
3.5.3 デバイスでの環境設定の変更	40
4 デバイス管理	43
4.1 ソフトウェアの配布	43
4.2 ポリシーの適用	45
4.3 デバイスのイメージング	47
4.3.1 Preboot Services の設定	47
4.3.2 イメージの取得	49
4.3.3 イメージの適用	51
4.3.4 詳細の参照場所	56

4.4	デバイスのリモート管理	56
4.4.1	リモート管理ポリシーの作成	57
4.4.2	リモート管理設定	58
4.4.3	リモートコントロール、リモートビュー、およびリモート実行操作の実行	59
4.4.4	リモート診断操作の実行	61
4.4.5	ファイル転送操作の実行	63
4.4.6	詳細の参照場所	64
4.5	ソフトウェアのパッチ適用	64
4.5.1	サブスクリプションライセンスの購入とアクティベート	65
4.5.2	新しいパッチ管理ライセンスの提供	65
4.5.3	サブスクリプションサービスの開始	66
4.5.4	パッチの展開	67
4.5.5	パッチ管理ライセンスの更新	68
4.5.6	詳細の参照場所	68
4.6	ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集	68
4.6.1	デバイススキャンの開始	68
4.6.2	デバイスインベントリの表示	69
4.6.3	インベントリレポートの生成	70
4.6.4	詳細の参照場所	71
4.7	ソフトウェア使用状況の監視	71
4.8	ライセンスコンプライアンスの監視	73
4.8.1	ライセンスコンプライアンスコンポーネント	73
4.8.2	インストールされた製品の検出	74
4.8.3	カタログ製品と購買記録の作成	75
4.8.4	ライセンス製品の作成	77
4.8.5	コンプライアンスデータの表示	79
4.8.6	詳細の参照場所	80
4.9	ライセンスの割り当て	80
4.10	デバイスのリタイア	83
5	ZENworks Adaptive Agent の展開	85
5.1	ネットワークデバイスの検出	85
5.2	デバイスのインポート	86
5.3	ZENworks Adaptive Agent のインストール	87
5.3.1	手動インストール	88
5.3.2	エージェントの Linux デバイスへの展開	89
5.3.3	ZENworks コントロールセンター展開タスク	90
5.4	ZENworks Adaptive Agent の使用	95
5.4.1	管理ゾーンへのログイン	95
5.4.2	Adaptive Agent ビューの移動	96
5.4.3	Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化	100
5.4.4	管理対象デバイスのサテライトへの昇格	103
6	システムメッセージおよびレポート	105
6.1	システムメッセージの参照	105
6.1.1	メッセージのサマリの参照	105
6.1.2	メッセージの承認	106
6.1.3	詳細の参照場所	108
6.2	ウォッチリストの作成	108
6.3	レポートの生成	109
A	マニュアルの更新	113
A.1	2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3)	113

このガイドについて

この『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』では、ZENworks® 10 Configuration Management システムを管理するための基本事項を短期間で習得するために役立ちます。ZENworks システムがインストールされている必要があります。まだインストールしていない場合は、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』を参照してください。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ (9 ページ) **管理クイックリスト**: ZENworks システムの設定と監視、管理対象デバイスへの ZENworks Adaptive Agent の展開、およびデバイスに対する管理タスクの実行に必要な項目のチェックリストが提供されています。
- ◆ (15 ページ) **管理ツールクイックビュー**: 主要な 2 つの ZENworks 管理ツールである ZENwork コントロールセンターと zman コマンドラインユーティリティを紹介しています。
- ◆ (21 ページ) **ゾーン設定**: 実行可能な管理タスクを最適にサポートする ZENworks システムの設定について説明しています。
- ◆ (85 ページ) **ZENworks Adaptive Agent の展開**: ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールする手順について説明しています。ZENworks を使用して管理を行う場合は、すべてのデバイスに Adaptive Agent が必要です。
- ◆ (43 ページ) **デバイス管理**: デバイスを管理するのに必要なさまざまなタスクを実行するための手順について説明しています。
- ◆ (105 ページ) **システムメッセージおよびレポート**: ZENworks システムの動作に関する情報を入手する方法を紹介しています。

対象読者

本ガイドは、ZENworks システムの設定、ZENworks システムの監視、あるいはデバイスまたはユーザの管理に関する ZENworks のタスクを実行するすべてのユーザ向けに作成されています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

追加のマニュアル

ZENworks 10 Configuration Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、[ZENworks 10 Configuration Management SP3 のドキュメント \(http://www.novell.com/documentation/zcm10/\)](http://www.novell.com/documentation/zcm10/) を参照してください。

マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

管理クイックリスト

1



ZENworks® サーバ (または複数のサーバ) をインストールしたら、Novell® ZENworks 10 Configuration Management SP3 の時間の節約に役立つすべての機能を使用できるようになります。次のセクションは、ご使用の環境内のデバイスを効果的に管理する手助けとなる設定、展開、管理、および状態監視の概念およびタスクを簡単に紹介するように構成されています。




- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「ゾーン設定」
- ◆ 10 ページのセクション 1.2 「ZENworks Adaptive Agent の展開」
- ◆ 11 ページのセクション 1.3 「デバイス管理」
- ◆ 13 ページのセクション 1.4 「システムメッセージおよびレポート」

1.1 ゾーン設定

ソフトウェアの配布およびデバイスへのポリシーの適用を開始する前に、管理ゾーンが ZENworks 管理機能をフル活用できるように設定されているかを確認するために、いくつかの設定タスクを完了しておく必要があります。

表 1-1 ゾーン設定タスク


タスク	詳細
 デバイスの構成用フォルダおよびグループの作成	<p>ZENworks 環境設定の適用および同様のデバイス上でのタスクの実行に関するオーバーヘッドを簡単にするためにデバイスをフォルダおよびグループに構成します。個々のデバイスで割り当てを行ったり、タスクを実行するのではなく、フォルダまたはグループにある各デバイスで割り当てやタスクを継承しながら、フォルダやグループを管理できます。</p> <p>方法については、21 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成：フォルダとグループ」を参照してください。</p>
 登録キーまたはルールを作成	<p>ZENworks Adaptive Agent は管理するそれぞれのデバイスにインストールする必要があります。ZENworks Adaptive Agent をデバイスに展開するとき、デバイスは管理ゾーンに登録されません。</p> <p>登録キーまたは登録ルールを使用して、自動的にデバイスを適切なフォルダおよびグループに割り当て、正しい環境設定およびソフトウェアとポリシーの割り当てを迅速確実に受け取ることができます。</p> <p>方法については、27 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」を参照してください。</p>




タスク	詳細
 ユーザソースの追加	<p>ソフトウェアおよびポリシーをユーザやデバイスに割り当てる ことができます。デバイス割り当て済みソフトウェアおよびポ リシーとは異なり、ユーザ割り当てソフトウェアおよびポリ シーは、ユーザが管理ゾーンにログインしたときにのみデバイ スで利用できます。</p> <p>ユーザを手動で管理ゾーンに追加するわけではありません。代 わりに、ZENworks 内で信頼されたユーザソースとして使用す る LDAP ディレクトリに接続します。その後で、ユーザソース 内に定義されているユーザにソフトウェアおよびポリシー割り 当てを行うことができます。</p> <p>方法については、34 ページのセクション 3.3「ユーザソースへ の接続」を参照してください。</p>
 追加管理者アカウントの作成	<p>インストール中に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。デフォルトの Administrator ア カウントは管理ゾーン全体に権限を提供します。</p> <p>ゾーンへのアクセスが制限された追加の管理者アカウントを作 成できます。たとえば、ソフトウェアを特定のフォルダ内のデ バイスまたはユーザに割り当てる機能のみを提供するアカウ ントを作成することができます。</p> <p>方法については、36 ページのセクション 3.4「ZENworks 管理 者アカウントの作成」を参照してください。</p>
 ゾーン環境設定の変更	<p>ゾーン設定は最も一般的な設定を提供するために事前設定され ています。必要に応じて設定を変更できます。</p> <p>方法については、38 ページのセクション 3.5「環境設定の変更」 を参照してください。</p>

1.2 ZENworks Adaptive Agent の展開

ZENworks Adaptive Agent は、ZENworks サーバと通信して、デバイスで管理タスクを実行
します。管理するすべてのデバイスに Adaptive Agent を展開する必要があります。
Adaptive Agent を展開することにより、エージェントファイルをインストールし、デバイ
スを管理ゾーンに登録します。

表 1-2 展開タスク


タスク	詳細
 デバイスの検出	<p>ZENworks コントロールセンターを利用してエージェントをデ バイスに展開するよう選択した場合は、まず初めに管理ゾー ンにデバイスを追加する必要があります。これはネットワー クディスカバリを実行することによって行うことができます。</p> <p>方法については、85 ページのセクション 5.1「ネットワー クデバイスの検出」を参照してください。</p>







タスク	詳細
 デバイスのインポート	<p>また、カンマ区切り値 (CSV) ファイルからデバイスを管理ゾーンにインポートすることもできます。各デバイスエントリは IP アドレスまたは DNS 名を含んでいる必要があります。</p> <p>方法については、86 ページのセクション 5.2 「デバイスのインポート」 を参照してください。</p>
 ZENworks Adaptive Agent のインストール	<p>ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするにはさまざまな方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks コントロールセンターを使用してエージェントを ZENworks サーバからデバイスに展開します。 ◆ デバイス側では、Web ブラウザを使用して ZENworks サーバからエージェントをダウンロードし、インストールします。 ◆ エージェントをイメージに含め、イメージをデバイスに適用します。 <p>方法については、87 ページのセクション 5.3 「ZENworks Adaptive Agent のインストール」 を参照してください。</p>
 ZENworks Adaptive Agent へのログインと使用	<p>デバイスでユーザ割り当て済みバンドルおよびポリシーを受け取るには、管理ゾーンにログインする必要があります。さらに各種の Adaptive Agent の機能を有効化または無効化して、Adaptive Agent の機能を制御することができます。</p> <p>方法については、95 ページのセクション 5.4 「ZENworks Adaptive Agent の使用」 を参照してください。</p>




1.3 デバイス管理

ZENworks は、デバイスを管理するために実行できるさまざまなタスクを提供します。次のタスクは必要に応じて任意の順序で実行できます。

表 1-3 デバイス管理

タスク	詳細
 ソフトウェアの配布	<p>ソフトウェアをバンドルを使用して配布します。バンドルは、ソフトウェアのインストール、起動、およびアンインストール (必要な場合) に必要なソフトウェアファイルおよび指示を含んでいます。バンドルを作成して、Windows* Installer アプリケーション (MSI および MSP の両方)、非 Windows Installer アプリケーション、Web リンク、およびシンクライアントアプリケーションを配布できます。</p> <p>方法については、43 ページのセクション 4.1 「ソフトウェアの配布」 を参照してください。</p>




タスク	詳細
 ポリシーの適用	<p>デバイス動作をポリシーのアプリケーションを通じて制御します。ZENworks を使用すると、Windows Group ポリシー、ローミングプロファイルポリシー、ブラウザブックマークポリシー、プリンタポリシーなどを作成して適用できます。</p> <p>方法については、45 ページのセクション 4.2 「ポリシーの適用」を参照してください。</p>
 デバイスのイメージを取得およびイメージのデバイスへの適用	<p>デバイスのイメージの作成、イメージのデバイスへの適用、およびイメージングスクリプトのデバイス上での実行を行うことができます。ZENworks Configuration Management は Preboot Services 機能を使用して、これらのイメージングタスクをスタートアップ時にデバイス上で実行します。</p> <p>方法については、47 ページのセクション 4.3 「デバイスのイメージング」を参照してください。</p>
 管理デバイスのリモート管理	<p>デバイスにリモートでアクセスしてユーザを支援したり、操作を実行したりします。デバイスを制御または参照することができます。また、診断を実行して、ファイルを実行および転送したり、デバイスの問題をトラブルシューティングしたりすることもできます。</p> <p>方法については、56 ページのセクション 4.4 「デバイスのリモート管理」を参照してください。</p>
 ソフトウェアパッチのデバイスへの適用	<p>ZENworks Patch Management は個別にライセンス許可される製品であり、評価用として ZENworks Configuration Management に含まれています。Patch Management を使用すると、ソフトウェアパッチを自動的に一貫して適用して脆弱性および問題を最小限にすることができます。</p> <p>方法については、64 ページのセクション 4.5 「ソフトウェアのパッチ適用」を参照してください。</p>
 デバイスのスキャンによるソフトウェアおよびハードウェアインベントリの収集	<p>デバイスをスキャンしてデバイスのソフトウェアおよびハードウェアインベントリを収集します。インベントリ情報はソフトウェア配布およびハードウェアアップグレードを決定する手助けとなります。</p> <p>方法については、68 ページのセクション 4.6 「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」を参照してください。</p>
 ソフトウェア使用の監視	<p>ZENworks Asset Management は個別にライセンス化される製品であり、評価用として ZENworks 10 Configuration Management に含まれています。</p> <p>Asset Management で、使用しているソフトウェア製品の数量や使用頻度を分析するレポートを生成できます。</p> <p>詳細については、71 ページのセクション 4.7 「ソフトウェア使用状況の監視」を参照してください。</p>

タスク	詳細
 ソフトウェアのライセンスコンプライアンスの監視	<p>ZENworks Asset Management は個別にライセンス化される製品であり、評価用として ZENworks 10 Configuration Management に含まれています。</p> <p>Asset Management で、実際の製品インストール数と購入したライセンス数を比較して、組織が製品使用許諾契約に従っているかどうか確認できます。</p> <p>方法については、73 ページのセクション 4.8「ライセンスコンプライアンスの監視」を参照してください。</p>
 ライセンスの割り当て	<p>ZENworks Asset Management は個別にライセンス化される製品であり、評価用として ZENworks 10 Configuration Management に含まれています。</p> <p>Asset Management では、組織内でライセンスを割り当てて、ライセンスの所有権と配布を追跡できます。ライセンスはデバイス単位または人口統計単位 (サイト、部署、コストセンター) に割り当てられます。</p> <p>方法については、80 ページのセクション 4.9「ライセンスの割り当て」を参照してください。</p>
 デバイスのリタイア	<p>サーバまたはワークステーションをリタイアして、ZENworks ゾーンから削除します。</p> <p>方法については、83 ページのセクション 4.10「デバイスのリタイア」を参照してください。</p>

1.4 システムメッセージおよびレポート

ゾーン内で管理タスクを実行すると、情報が記録されてゾーンの状態とそこで行われているアクティビティを参照できるようになります。

表 1-4 システムメッセージおよびレポートタスク

タスク	詳細
 システムメッセージの表示	<p>ZENworks システムは、情報、警告およびエラーメッセージを生成して、ソフトウェアの配布やポリシーの適用などのアクティビティを監視する手助けとなります。</p> <p>方法については、105 ページのセクション 6.1「システムメッセージの参照」を参照してください。</p>
 ウォッチリストの作成	<p>アクティビティを詳しく監視したいデバイス、バンドル、およびポリシーがある場合、それらをウォッチリストに追加できません。</p> <p>方法については、108 ページのセクション 6.2「ウォッチリストの作成」を参照してください。</p>
 レポート生成	<p>デバイス、バンドル、ポリシーなどのレポートを生成します。</p> <p>方法については、109 ページのセクション 6.3「レポートの生成」を参照してください。</p>

管理ツールクックビュー

2

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management には、ZENworks システムを管理するために Web ベースのコンソール (ZENworks コントロールセンター) とコマンドラインユーティリティ (zman) の両方が提供されています。次のセクションでは、管理ツールのアクセス方法および使用法について説明します。

- 15 ページのセクション 2.1 「ZENworks コントロールセンター」
- 17 ページのセクション 2.2 「zman コマンドラインユーティリティ」
- 18 ページのセクション 2.3 「zac コマンドラインユーティリティ」

2.1 ZENworks コントロールセンター

ZENworks コントロールセンターは、管理ゾーンのすべての ZENworks サーバにインストールされます。どの ZENworks サーバでも、すべての管理タスクを実行できます。

- 15 ページのセクション 2.1.1 「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- 16 ページのセクション 2.1.2 「ZENworks コントロールセンターの操作」

2.1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス

- 1 『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「管理ブラウザの要件」に記載されている要件を満たす Web ブラウザを使用して、次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

`ZENworks_Server_Address` は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) を使用していない場合は、`port` の指定が必要です。ZENworks コントロールセンターには HTTPS 接続が必要です。HTTP 要求は、HTTPS にリダイレクトされます。

[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。

Novell® ZENworks® ログイン		ヘルプ
管理ゾーン:	<input type="text" value="DOC_20070601B"/>	
ユーザ名:	<input type="text"/>	
パスワード:	<input type="password"/>	
使用言語:	<input type="text" value="日本語"/>	▼
<input type="button" value="ログイン"/>		
		N

- 2 [ユーザ名] フィールドに「Administrator」と入力します。

- 3 [パスワード] フィールドには、インストール時に作成した管理者パスワードを入力します。

認可されていないユーザが ZENworks コントロールセンターにアクセスできないようにするために、ログインの試行で 3 回失敗した場合、管理者アカウントが無効化されます。また、ログインを再度試行するまでに、60 秒のタイムアウトが実施されます。これらのデフォルト値を変更する場合は、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「デフォルトのログインを無効にする値の変更」を参照してください。

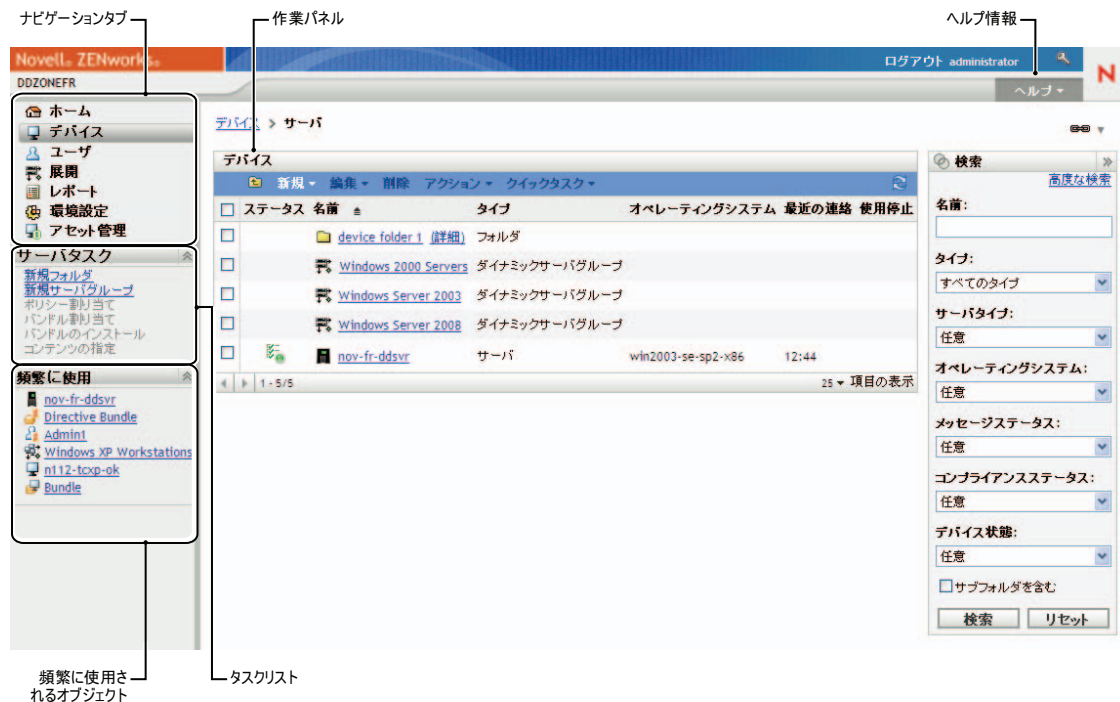
- 4 [ログイン] をクリックして ZENworks コントロールセンターを表示します。

別の管理者としてログインする詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」を参照してください。

注：他の Novell 製品に対して管理ツールとして Novell iManager を使用している場合、iManager 経由で ZENworks コントロールセンターを使用できるように設定できます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス」を参照してください。

2.1.2 ZENworks コントロールセンターの操作

次の [サーバ] ページは、ZENworks コントロールセンターの標準的な画面を示しています。



ナビゲーションタブ: 左側のウィンドウのタブを使用すると、ZENworks の機能領域を移動できます。たとえば、このサーバページでは、サーバに関連付けられたタスクを管理できます。

タスクリスト: 左側のウィンドウのタスクリストからは、現在のページで最も頻繁に実行するタスクにすばやくアクセスできます。タスクリストはページごとに異なります。たとえば、[バンドル] ページのタスクリストにはバンドル関連のタスクが、[デバイス] ページのタスクリストにはデバイス関連のタスクがそれぞれ表示されます。

頻繁に使用されるオブジェクト: 左側のウィンドウの [頻繁に使用] リストには、最も使用頻度の高い順から低い順に、アクセスした上位 10 のオブジェクトが表示されます。オブジェクトをクリックすると、直接そのオブジェクトの詳細ページに移動します。

作業パネル: 作業パネルでは、ZENworks システムの管理および監視を行います。パネルは、現在のページによって異なります。上の例では、[デバイス] と [検索] という 2 つの作業パネルがあります。[デバイス] パネルには、サーバ、フォルダ、サーバグループ、作成されたダイナミックサーバグループのリストが表示されます。このパネルはサーバの管理に使用します。[検索] パネルでは、サーバ名、オペレーティングシステム、ステータスなどの条件に従って [デバイス] パネルをフィルタリングできます。

ヘルプ情報: [ヘルプ] ボタンは、現在のページに関する情報が提供されているヘルプトピックにリンクされています。[ヘルプ] ボタンのリンクは、現在のページによって異なります。

2.2 zman コマンドラインユーティリティ

zman ユーティリティには、ZENworks コントロールセンターで使用可能なタスクの大半を実行できる、コマンドライン管理インターフェースがあります。イメージング/プレブートタスク、リモート管理タスク、およびソフトウェアパッチタスクは実行できません。

zman ユーティリティの主要な目的は、スクリプトによって操作を実行できるようにすることです。ただし、コマンドラインから手動で操作を実行することもできます。

- ◆ 17 ページのセクション 2.2.1 「ディレクトリ」
- ◆ 17 ページのセクション 2.2.2 「構文」
- ◆ 18 ページのセクション 2.2.3 「コマンドのヘルプ」

2.2.1 ディレクトリ

このユーティリティは、次の場所のすべての ZENworks サーバにインストールされます。

```
%ZENWORKS_HOME%\bin
```

%ZENWORKS_HOME% は、ZENworks のインストールパスを示します。Windows では、デフォルトパスは c:\novell\zenworks\bin です。Linux* では、デフォルトパスは /opt/novell/zenworks/bin です。

2.2.2 構文

zman ユーティリティの基本的な構文は次のとおりです。

```
zman category-action [options]
```

たとえば、ソフトウェアバンドルをデバイスに割り当てる場合、次のコマンドを使用します。

```
zman bundle-assign workstation bundle1 wks1
```

ここで、`bundle-assign` が `category-action` となり、オプションは `workstation bundle1 wks1` です。この例では、`option` はデバイスタイプ (`workstation`)、バンドル名 (`bundle1`)、およびターゲットデバイス (`wks1`) です。

2.2.3 コマンドのヘルプ

コマンドを理解するには、オンラインヘルプを使用するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「`zman(1)`」を参照することが最も効果的です。

オンラインヘルプを使用するには、次の操作を行います。

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで「`zman --help`」と入力します。

このコマンドでは、基本的な使用法 (構文) および使用可能なコマンドカテゴリのリストが表示されます。または次のように入力してヘルプを使用することもできます。

コマンド	説明
<code>zman --help more</code>	カテゴリ別にすべてのコマンドが一覧表示されます。
<code>zman category --help more</code>	カテゴリ内のすべてのコマンドが一覧表示されます。
<code>zman command --help more</code>	コマンドのヘルプが表示されます。

2.3 zac コマンドラインユーティリティ

`zac` ユーティリティには、ZENworks Adaptive Agent で使用できるタスクを実行できるコマンドライン管理インタフェースが提供されています。

- 18 ページのセクション 2.3.1 「ディレクトリ」
- 18 ページのセクション 2.3.2 「構文」
- 19 ページのセクション 2.3.3 「コマンドのヘルプ」

2.3.1 ディレクトリ

このユーティリティは、次の場所のすべての Windows 管理対象デバイスにインストールされます。

```
%ZENWORKS_HOME%\bin
```

`%ZENWORKS_HOME%` は、ZENworks のインストールパスを示します。デフォルトパスは、32 ビット Windows デバイスでは `c:\program files\novell\zenworks\bin`、64 ビット Windows デバイスでは `c:\program files (x86)\novell\zenworks\bin` です。

2.3.2 構文

`zac` ユーティリティでは、次の基本的な構文を使用しています。

`zac` コマンドオプション

たとえば、バンドルをデバイスで起動するには、次のコマンドを使用します。

```
zac bundle-launch "bundle 1"
```

ここで、`bundle-launch` がコマンドとなり、コマンドオプションは `bundle 1` です。この例では、オプションは起動されるバンドルの表示名です。バンドルの表示名にスペースが含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。

2.3.3 コマンドのヘルプ

コマンドを理解するには、オンラインヘルプを使用するか、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zac\(1\)](#)」を参照することが最も効果的です。

オンラインヘルプを使用するには、次の操作を行います

- 1 管理対象デバイスのコマンドプロンプトで、次のコマンドのいずれかを入力します。

コマンド	説明
<code>zac --help</code>	すべてのコマンドを一覧表示します。
<code>zac command --help</code>	コマンドの詳細なヘルプが表示されます。

ゾーン設定

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の目的は、多数のデバイスやユーザをできる限り少ない作業で効率的な管理を行えるようにすることです。この管理作業の最初のステップは、ZENworks の機能のすべての利点を利用できるように管理ゾーンを確実に設定することです。

次のセクションでは、実行する継続的な管理タスクを最大限にサポートする管理ゾーンをセットアップするために理解しておく必要がある基本概念について説明します。それぞれの項目は管理概念を説明し、概念に関連するタスクを実行するための一般的なステップを提供します。

- ◆ 21 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成：フォルダとグループ」
- ◆ 27 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」
- ◆ 34 ページのセクション 3.3 「ユーザソースへの接続」
- ◆ 36 ページのセクション 3.4 「ZENworks 管理者アカウントの作成」
- ◆ 38 ページのセクション 3.5 「環境設定の変更」

3.1 デバイスの構成：フォルダとグループ

ZENworks コントロールセンターを使用して、個々のデバイスオブジェクトで直接タスクを実行してデバイスを管理できます。ただし、この方法は管理するデバイスが少ない場合にのみ効率的です。多数のデバイスの管理を最適化するため、ZENworks ではデバイスをフォルダおよびグループに分類し、フォルダまたはグループごとにタスクを実行してデバイスを管理できます。

フォルダおよびグループは、いつでも作成できます。ただし、最もよい方法はフォルダおよびグループを作成し、デバイスをゾーンに登録することです。これによって、登録キーおよびルールを使用して、デバイスの登録時に自動的にデバイスを適切なフォルダおよびグループに追加することができます (27 ページの「デバイスを登録する」を参照)。

- ◆ 21 ページのセクション 3.1.1 「フォルダ」
- ◆ 24 ページのセクション 3.1.2 「グループ」
- ◆ 27 ページのセクション 3.1.3 「フォルダおよびグループの割り当ての継承」

3.1.1 フォルダ

フォルダは、デバイスを整理してデバイスの管理を簡素化するための優れたツールです。すべてのフォルダ上で、環境設定の適用、コンテンツの割り当て、およびタスクの実行を行えます。この場合、フォルダのデバイスはその設定、割り当て、およびタスクを継承します。

最適の結果を得るには、類似の環境設定要件のデバイスを同じフォルダに配置することです。フォルダ内のすべてのデバイスで同じコンテンツまたはタスクが必要な場合、フォルダにコンテンツを割り当てることもできます。ただし、フォルダ内のすべてのデバイスが

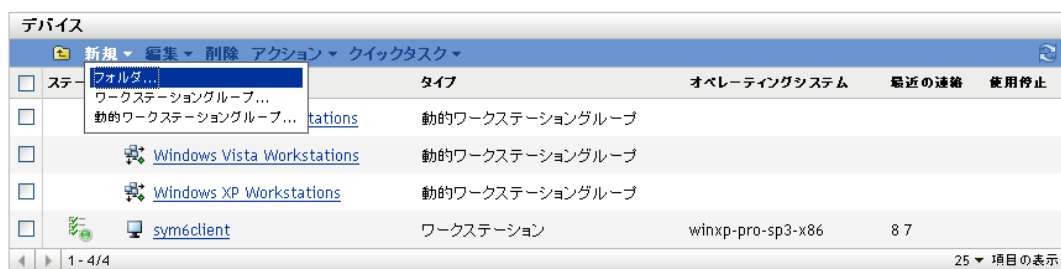
同じコンテンツ、タスクの要件を持っているとは限りません。したがって、デバイスをグループに分類し、適切なコンテンツとタスクを各グループに割り当てることができます(次の 24 ページの「グループ」を参照)。

たとえば、3つの異なるサイトにワークステーションがあるとします。3つのサイトのワークステーションに対して異なる環境設定を適用するとします。したがって、次の3つのフォルダ (/ワークステーション/Site1、/ワークステーション/Site2、および/ワークステーション/Site3)を作成し、各フォルダに該当するワークステーションを配置します。すべてのワークステーションに対してほとんど同じ構成の設定を適用するため、これらの設定は管理ゾーンで行います。ただし、サイト1とサイト2ではソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集を毎週実行し、サイト3では月に1回だけ収集を実行します。管理ゾーンでインベントリの収集を毎週に設定し、サイト3のフォルダを上書きして毎月を適用します。サイト1とサイト2ではインベントリを週次で収集し、サイト3ではインベントリを月次で収集します。

フォルダの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [ワークステーション] フォルダをクリックします。

[デバイス](#) > ワークステーション



デバイス					
新規 ▾ 編集 ▾ 削除 アクション ▾ クイックタスク ▾					
ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡	使用停止
<input type="checkbox"/>	動的ワークステーショングループ...	動的ワークステーショングループ			
<input type="checkbox"/>	動的ワークステーショングループ...	動的ワークステーショングループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Vista Workstations	動的ワークステーショングループ			
<input type="checkbox"/>	Windows XP Workstations	動的ワークステーショングループ			
<input type="checkbox"/>	syméclient	ワークステーション	winxp-pro-sp3-x86	8 7	

- 3 [新規] > [フォルダ] の順にクリックし、[新規フォルダ] ダイアログボックスを表示します。

4 [名前] フィールドに新しいフォルダの名前を入力します。

ZENworks コントロールセンターの中でオブジェクト (フォルダ、グループ、バンドル、ポリシーなど) に名前を付ける場合は、名前が次の規則に従うようにしてください:

- 名前はフォルダ内で一意である必要があります。
- ZENworks データベースに使用されているデータベースソフトウェアによっては、同じ名前に対して大文字および小文字が区別されない場合があります。
ZENworks Configuration Management に含まれる組み込みデータベースは大文字と小文字を区別しないため、「Folder 1」と「FOLDER 1」は同じ名前とみなされ、同じフォルダ内で使用することはできません。大文字と小文字を区別する外部データベースを使用している場合、Folder 1 と FOLDER 1 は別個となります。
- 空白を使用する場合、コマンドラインに名前を入力するには、引用符で囲む必要があります。たとえば、zman ユーティリティで「Folder 1」と入力するには、引用符で囲む必要があります (“Folder 1”)
- 次の文字は無効なので使用できません。 \ * ? : " ' < > | ` % ~

5 [OK] をクリックしてフォルダを作成します。

また、zman ユーティリティで workstation-folder-create および server-folder-create コマンドを使用してデバイスフォルダを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ワークステーションコマンド」および「サーバコマンド」を参照してください。

3.1.2 グループ

フォルダと同様、デバイスグループにコンテンツを割り当て、タスクを実行することもできます。この場合、グループのデバイスはその割り当てとタスクを継承します。フォルダとは異なり、環境設定をグループに適用することはできません。

グループにより、コンテンツ割り当てとタスクに層が追加され、柔軟性が増します。一部のケースで、フォルダにあるすべてのデバイスでデバイスに同じコンテンツを割り当てて同じタスクを実行したくない場合があります。また、別のフォルダ内の1つ以上のデバイスでデバイスに同じコンテンツを割り当ててタスクを実行したい場合があります。これを行うには、デバイスをグループに追加して(どのフォルダにデバイスが含まれているかにかかわらず)、コンテンツをグループに割り当ててタスクを実行します。

たとえば、また3つのサイトのワークステーションの例でみてみましょう(21 ページのセクション 3.1.1 「フォルダ」を参照)。各サイトのいくつかのワークステーションで同じ会計ソフトウェアが必要であるとします。グループに対してソフトウェアを割り当てるのが可能であるため、Accounting グループを作成し、対象となるワークステーションをそのグループに追加し、適切な会計ソフトウェアをそのグループに割り当てます。

グループに対して割り当てを行う利点は、そのグループに含まれるすべてのデバイスが割り当てを受け取りますが、割り当ては1回実行するだけですみます。さらに、1つのデバイスが複数の一意のグループに属することができ、複数のグループからの割り当てを受け取ることができます。たとえば、あるデバイスをグループ A とグループ B に割り当てるとすると、デバイスは両方のグループに割り当てられたソフトウェアを継承します。

ZENworks ではグループと動的グループの両方が提供されています。コンテンツ割り当て、またはタスクの実行の観点から見ると、グループおよびダイナミックグループ機能はまったく同じです。2つのタイプのグループの唯一の違いは、グループにデバイスを追加する方法です。グループの場合は、手動でデバイスを追加する必要があります。動的グループでは、グループのメンバに合致するデバイスの条件を定義しておき、デバイスがその条件に一致すると自動的に追加されます。

ZENworks には、いくつかの事前定義された動的サーバグループ (Windows 2000 サーバと Windows 2003 サーバ) と動的ワークステーショングループ (Windows XP ワークステーション、Windows 2000 ワークステーション、および Windows Vista ワークステーション) が含まれています。これらのオペレーティングシステムを持つデバイスはすべて、自動的に該当する動的グループに追加されます。

グループの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 サーバ用のグループを作成する場合は、[サーバ] フォルダをクリックします。

または

ワークステーション用のグループを作成する場合は、[ワークステーション] フォルダをクリックします。

デバイス > ワークステーション



- 3 [新規] > [サーバグループ] (またはワークステーションの場合は [新規] > [ワークステーショングループ]) の順にクリックして新しいグループの作成ウィザードを起動します。

デバイス > ワークステーション > 新しいグループの作成

新しいグループの作成

ステップ 1: 基本情報

グループ名: *

フォルダ: *

説明:

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

- 4 [基本情報] ページで、[グループ名] フィールドに新規グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
グループ名は命名規則に準拠している必要があります。
- 5 [サマリ] ページで [完了] をクリックし、メンバを追加しないでグループを作成します。
または
グループにメンバーを追加する場合は [次へ] をクリックしてからステップ 6 に進みます。
- 6 [グループメンバの追加] ページで、[追加] をクリックしてグループにデバイスを追加し、デバイスの追加が完了したら [次へ] をクリックします。
- 7 [サマリ] ページで [完了] をクリックしてグループを作成します。

また、zman ユーティリティで workstation-group-create および server-group-create コマンドを使用してデバイスグループを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ワークステーションコマンド」および「サーバコマンド」を参照してください。

動的グループの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 サーバ用のグループを作成する場合は、[サーバ] フォルダをクリックします。
または
ワークステーション用のグループを作成する場合は、[ワークステーション] フォルダをクリックします。

デバイス > ワークステーション



デバイス				
新規 ▾ 編集 ▾ 削除 アクション ▾ クイックタスク ▾				
ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡 使用停止
<input type="checkbox"/>	動的ワークステーショングループ...	動的ワークステーショングループ		
<input type="checkbox"/>	Windows Vista Workstations	動的ワークステーショングループ		
<input type="checkbox"/>	Windows XP Workstations	動的ワークステーショングループ		
<input type="checkbox"/>	syméclient	ワークステーション	winxp-pro-sp3-x86	8 7

- 3 [新規作成] > [ダイナミックサーバグループ] (またはワークステーション用の場合は [新規作成] > [ダイナミックワークステーショングループ]) の順にクリックして、新しいグループの作成ウィザードを起動します。

新しいダイナミックグループの作成

🔧 ステップ 1: 基本情報

グループ名: *

フォルダ: *
 🔍

説明:

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

<<戻る 次>> キャンセル

- 4 [基本情報] ページで、[グループ名] フィールドに新規グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。
グループ名は**命名規則**に準拠している必要があります。
- 5 [グループメンバー用のフィルタの定義] ページで、デバイスがグループのメンバーになるために満たす必要がある条件を定義して、[次へ] をクリックします。
[ヘルプ] ボタンをクリックすると、条件の作成の詳細が表示されます。
- 6 [サマリ] ページで、[完了] をクリックしてグループを作成します。

3.1.3 フォルダおよびグループの割り当ての継承

フォルダにコンテンツを割り当てる場合、フォルダ内にあるグループを除くすべてのオブジェクト(ユーザ、デバイス、サブフォルダ)が割り当てを継承します。たとえば、BundleA を DeviceFolder1 に割り当てると、フォルダ内のすべてのデバイス(サブフォルダ内のすべてのデバイスも含む)が BundleA の割り当てを継承します。ただし、DeviceFolder1 にあるデバイスグループは、割り当てを継承しません。原則的に、フォルダの割り当ては、そのフォルダ内にあるグループには適用されません。

3.2 デバイスを登録する

ZENworks Adaptive Agent をデバイスを展開するとき、デバイスは管理ゾーンに登録され、管理対象デバイスとなります。登録の一貫として、デバイスの ZENworks 名およびデバイスを追加するフォルダまたはグループを指定できます。

デフォルトでは、デバイスのホスト名として ZENworks の名前が使用され、/Servers または /Workstations フォルダに追加され、他のグループのメンバにはなりません。手動でデバイスを別のフォルダに移動してグループに追加できますが、デバイスの数が多い場合や新規デバイスを連続して登録する場合には、面倒な仕事である場合もあります。大量のデバイスを管理する最もよい方法は、登録時にデバイスを自動で正しいフォルダおよびグループに追加することです。

登録時にデバイスをフォルダおよびグループに追加するには、登録キーまたは登録ルール、あるいはその両方を使用できます。登録キーまたは登録ルールの両方とも、フォルダおよびグループメンバをデバイスに割り当てることができます。ただし、登録にどちらか1つまたは両方を使用するかどうかを選択する前に、キーとルールには違いがあることに留意してください。

- ◆ 28 ページのセクション 3.2.1 「登録キー」
- ◆ 30 ページのセクション 3.2.2 「登録ルール」
- ◆ 32 ページのセクション 3.2.3 「デバイス命名テンプレート」
- ◆ 34 ページのセクション 3.2.4 「その他の情報の参照場所」

3.2.1 登録キー

登録キーは、手動で定義またはランダムに生成された英数字の文字列です。デバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開するとき、登録キーが必要となります。最初にデバイスを ZENworks サーバに接続するときに、デバイスはキー内に定義されているフォルダまたはグループに追加されます。

1つまたは複数の登録キーを作成して、デバイスが希望のフォルダおよびグループ内にあるようにすることができます。たとえば、すべての販売部のワークステーションが /Workstations/Sales フォルダに追加されているが、チーム割り当てによって、これが3つのグループ (SalesTeam1, SalesTeam2, SalesTeam3) に分かれるようにすることができます。3つの登録キーを作成して、各キーを設定し、販売部のワークステーションを /Workstations/Sales フォルダと適切なチームグループに追加することもできます。各ワークステーションが正しい登録キーを使用している限りは、これは適切なフォルダおよびグループに追加されます。

登録キーを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックし、次に [登録] タブをクリックします。



- 2 [登録キー] パネルで、[新規作成] > [登録キー] の順にクリックして、新規登録キーの作成ウィザードを起動します。

新規登録キーの作成

🔧 ステップ 1: 基本情報

新しい登録キーの名前、説明、および制限を入力します。[生成] ボタンをクリックすると、一意の名前が生成されます。

キーコード: *

生成

フォルダ: *



説明:

このキーを使用できる回数:

無制限

制限:

* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

<< 戻る

次 >>

キャンセル

3 プロンプトに従って、キーを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで `registration-create-key` コマンドを使用して登録キーを作成することもできます。詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「登録コマンド」を参照してください。

3.2.2 登録ルール

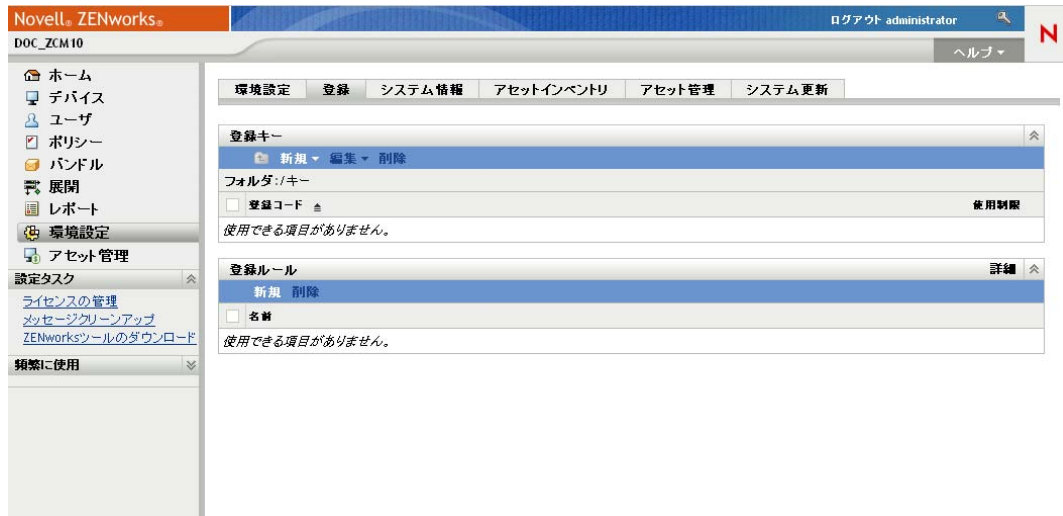
展開中に登録キーを入力しない場合、またはデバイスを自動的に前もって定義された条件 (オペレーティングシステムタイプ、CPU、または IP アドレスなど) に基づいて別のフォルダおよびグループに追加しない場合は、登録ルールを使用できます。

ZENworks には、サーバとワークステーションについてそれぞれ別のデフォルト登録ルールがあります。キーを使わずにデバイスを登録し、登録ルールが作成されていない場合、デフォルトの登録ルールが適用されて、フォルダの割り当てが決まります。2つのデフォルトルールによって、すべてのサーバは /Servers フォルダに追加され、すべてのワークステーションは /Workstations フォルダに追加されます。

2つのデフォルトルールは、サーバまたはワークステーションの登録が失敗しないように指定されています。したがって、これら2つのデフォルトルールを削除したり変更したりすることはできません。ただし、デバイスの登録時にデバイスをフィルタして異なるフォルダやグループに追加できるようにする追加のルールを定義できます。21 ページの [セクション 3.1「デバイスの構成：フォルダとグループ」](#) で推奨されているように、類似した環境設定を持つデバイス用のフォルダ、および類似した割り当てを持ち、デバイス用のグループがすでに作成されている場合、新しく登録されたデバイスは該当する環境設定および割り当てを自動的に継承します。

登録ルールを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックし、次に [登録] タブをクリックします。



- 2 [登録ルール] パネルで、[新規作成] をクリックして新規登録ルールの作成ウィザードを起動します。

新規ルールの作成

🔧 ステップ 1: 基本情報

新規ルールの名前と説明を入力します。

名前: *

説明:

<< 戻る

次 >>

キャンセル

3 プロンプトに従って、ルールを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで `ruleset-create` コマンドを使用して登録ルールを作成することもできます。詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[ルールセットコマンド](#)」を参照してください。

3.2.3 デバイス命名テンプレート

デバイス命名テンプレートに従って、登録時にデバイスの名前が付けられます。デフォルトでは、デバイスのホスト名が使用されます。次のマシン変数、`${HostName}`、`${GUID}`、`${OS}`、`${CPU}`、`${DNS}`、`${IPAddress}` を組み合わせて自由に名前を変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	システム更新	アセット管理
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ		説明			
ローカルデバイスのログ		管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。			
デバイスの更新スケジュール		デバイスの更新間隔を設定します。			
ZENworksエージェント		ZENworksエージェントを設定します。			
登録		登録設定を構成します。			
ZENworks Explorer設定		管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。			
システム変数		システム変数を設定します。			
起動前サービス		ブレードサービスを設定します。			
プライマリユーザ		プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。			
プライマリワークステーション		プライマリワークステーションの決定方法の設定を構成します。			
ダイナミックグループの更新スケジュール		ダイナミックグループの更新スケジュールを設定します。			
Wake-on-LAN		Wake-on-LAN設定を構成します。			
リモート管理		リモート管理を有効にして設定します。			
デイスカバリと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートングサービス					
アセット管理					
パッチ管理					

3 [登録] をクリックして [登録] ページを表示します。

[環境設定](#) > [登録](#)

登録 ✕

登録設定を構成します。

デバイス命名テンプレート ⌵

新規マシンの名前:

📄

登録ルール ⌵

登録ルールの使用を有効にします。

デフォルト登録ルールの使用を有効にします。

デバイスの動的名前変更 ⌵

デバイスの自動名前変更を有効にします。

OK
適用
リセット
キャンセル

4 [デバイス命名テンプレート] パネルで、📄をクリックして、リストから目的のマシン変数を選択します。

1つまたは複数の変数を任意に組み合わせて使用できます。次のように使用できます。

```
#{HostName}#{GUID}
```

5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

3.2.4 その他の情報の参照場所

デバイスの登録の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』を参照してください。

3.3 ユーザソースへの接続

コンテンツをデバイスに割り当てるだけでなく、ユーザに割り当てることができます。デバイス割り当て済みコンテンツとは異なり、ユーザ割り当て済みコンテンツは、ユーザが管理ゾーンにログインしている間のみデバイスで使用可能です。

コンテンツをユーザに割り当てることができるようにするために、ユーザが含まれている LDAP ディレクトリに読み込み専用の接続を作成できます。これによって ZENworks データベースにユーザオブジェクトの参照が作成されて、ZENworks コントロールセンターでユーザを認識できるようになり、割り当てを行うことができます。LDAP ディレクトリに影響はありません。ZENworks で必要なのは LDAP ディレクトリへの読み込みアクセスのみで、すべての割り当て情報は ZENworks データベースに保存されます。ユーザソースに接続する際に必要な特定の読み込み権の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』を参照してください。

ユーザソースとして Novell eDirectory™ および Microsoft* Active Directory* に接続できます。最小要件は、Windows 2000 SP4 にインストールされた Novell eDirectory 8.7.3 および Microsoft Active Directory です。LDAP の最小要件はバージョン 3 です。

LDAP ディレクトリに接続した後、ユーザ名を表示するディレクトリ内にコンテナを定義します。たとえば、MyCompany という名前の Microsoft Active Directory ドメインツリーを使用しているとします。すべてのユーザは、MyCompany ツリーの MyCompany/Users および MyCompany/Temp/Users という 2 つのコンテナに属しています。MyCompany ツリーをソースとして、MyCompany/Users および MyCompany/Temp/Users を別々のユーザコンテナとして参照できます。こうすることで、ディレクトリ内部でのアクセスをユーザを含むコンテナにのみ制限できます。

追加したコンテナに属するユーザに加えて、ZENworks コントロールセンターではコンテナ内に含まれるユーザグループも表示されます。これで、個々のユーザとユーザグループの両方の管理を行えるようになります。

ユーザソースに接続するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
サーバの階層					
管理者					
役割					
ユーザソース					
新規 削除					
<input type="checkbox"/> ステータス 名前					
使用できる項目がありません。					
ライセンス					
アカウント情報ポルト					

- 2 [ユーザソース] パネルで、[新規] をクリックして、新規ユーザソースの作成ウィザードを起動します。

[ユーザ](#) > [新規ユーザソースの作成](#)

新規ユーザソースの作成
🔧 ステップ 1: 接続情報
ユーザソースを設定すると、バンドルオブジェクトおよびポリシーオブジェクトをLDAPディレクトリに含まれているIDに割り当てるができます。
接続名:* <input type="text" value="a"/>
アドレス:* <input type="text" value="164.99.94.171"/>
<input checked="" type="checkbox"/> SSLの使用
ポート: <input type="text" value="636"/>
ルートLDAPコンテキスト: <input type="text"/> (オプション) (例: dc=company,dc=com)
<input style="border: 1px solid black;" type="button" value=" << 戻る "/> <input style="border: 1px solid black;" type="button" value=" 次 >> "/> <input style="border: 1px solid black;" type="button" value=" キャンセル "/>

- 3 プロンプトに従ってユーザソースを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで user-source-create コマンドを使用してユーザソースへの接続を作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ユーザコマンド」を参照してください。

3.4 ZENworks 管理者アカウントの作成

インストール中に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。このアカウントはスーパー管理者アカウントと呼ばれ、管理ゾーンに対するフル管理権を提供します。

通常、管理タスクを実行する各ユーザに対して管理者アカウントを作成します。これらのアカウントをスーパー管理者アカウントとして定義するか、または制限された権限を持つ管理者アカウントとして定義できます。たとえば、管理ゾーン内のデバイスの検出と登録のみを許可する管理者アカウントをユーザに付与できます。または、デバイスへのバンドルの割り当てのみを許可するアカウントを作成することもできます。または、契約、ライセンス、文書管理などのアセット管理タスクの実行にアカウントを制限することができます。

場合によっては、複数の管理者アカウントに同じ管理権が必要になることがあります。各アカウントに個別に権限を割り当てるのではなく、管理者の役割を作成して、役割に管理権を割り当て、アカウントを役割に追加できます。たとえば、数人の管理者が必要とする管理権を提供するヘルプデスク役割を作成します。

追加管理者アカウントを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	システム更新	アセット管理
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
ディスクパリティと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートングサービス					
アセット管理					
バッチ管理					
サーバの階層					
管理者					
新規 編集 ▼ 削除					
<input type="checkbox"/>	名前 ▲	フルネーム	ユーザーズ内のユーザー名		
使用できる項目がありません。					
役割					

- 2 [管理者] パネルで、[新規] をクリックして [新しい管理者の追加] ダイアログボックスを表示します。

新しい管理者の追加
?
×

管理者を作成する方法は2つあります:

名前およびパスワードを指定して新しい管理者を作成します。

管理者名: *

フルネーム:

パスワード: *

パスワードを再入力してください: *

ユーザソース内のユーザを基準にする
信頼されたソースで定義された同じアカウント情報を使用します。

	追加	削除
<input type="checkbox"/>	名前	フォルダ内

項目を選択していません、[追加]をクリックして項目を選択します。

自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します。
アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK
キャンセル

3 次のフィールドに情報を入力します。

[新しい管理者の追加] ダイアログボックスでは、名前またはパスワードを提供して新しい管理者アカウントを作成できます。またはユーザソースの既存のユーザに基づいて新しい管理者を作成できます。オプションで、ログインしている管理者と同じ権限を新しい管理者に付与できます。

名前とパスワードを提供して新しい管理者を作成する: このオプションは、手動で名前およびパスワードを指定して新しい管理者アカウントを作成する場合にのみ選択してください。

ユーザソースのユーザに基づく：このオプションは、ユーザソースからのユーザ情報に基づいて新しい管理者アカウントを作成する場合に選択してください。これを行うには、[追加] をクリックして、目的のユーザを参照して選択します。

自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します：このオプションは、新しい管理者に、現在ログインしている管理者と同じ権利を割り当てます。

- 4 フィールドに入力が完了したら [OK] をクリックして新しい管理者を [管理者] パネルに追加します。
- 5 新規の管理者の権限または役割を変更する必要がある場合は、管理者アカウントをクリックしてアカウントの詳細を表示します。

環境設定 > Admin1

全般			
管理者のフルネーム:	<input type="text" value="FirstAdmin"/>		
<input checked="" type="checkbox"/> スーパー管理者			
メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない) 割り当て済みのすべての権限が上書きされます。			

割り当てられた権利			
追加 編集 削除			
<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト	許可	拒否
使用できる項目がありません。			
メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。			

割り当て済みの役割		
追加 編集 削除		
<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
使用できる項目がありません。		

- 6 [割り当てられた権限] パネルを使用して割り当てられている権限を変更します。
このページにあるオプションの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「管理者権限の管理」を参照してください。

- 7 権限の変更が完了したら、[適用] をクリックして変更内容を保存します。

ZENworks 管理者アカウントまたは管理者役割の作成の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「管理者」を参照してください。

z man ユーティリティで admin-create コマンドを使用して ZENworks 管理者アカウントを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「管理者コマンド」を参照してください。

3.5 環境設定の変更

管理ゾーンの環境設定では、ゾーンでの様々な機能の動作を制御できます。デバイスにコンテンツを配布する時間および ZENworks のサーバ間でコンテンツを複製する頻度 (複数のサーバがある場合) を制御する [コンテンツ] 設定があります。デバイス管理設定では、デバイスが更新された情報を確認するために ZENworks サーバにアクセスする頻度、

動的グループの更新頻度、およびどのレベルのメッセージ(情報、警告、またはエラー)をZENworks Adaptive Agentで記録するかを制御することができます。イベントおよびメッセージの設定、ディスカバリおよび展開の設定、その他さまざまな設定があります。

デバイスに適用する管理ゾーンの設定は、ゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。21 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成:フォルダとグループ」で説明したように、ゾーン設定をデバイスフォルダまたは個別のデバイス上で設定することによって上書きすることができます。これにより、必要に応じて最多のデバイスに適用するゾーン設定を確立して、フォルダおよびデバイス状の設定を上書きすることができます。

デフォルトでは、ゾーンの設定は一般的な機能を提供する値を使用して事前に設定されています。ただし、使用している環境に必要な動作に適応するように設定を変更することができます。

- ◆ 39 ページのセクション 3.5.1 「ゾーンでの環境設定の変更」
- ◆ 40 ページのセクション 3.5.2 「フォルダの環境設定の変更」
- ◆ 40 ページのセクション 3.5.3 「デバイスでの環境設定の変更」

3.5.1 ゾーンでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[ディスカバリと展開]、[イベントとメッセージング] など) をクリックします。

管理ゾーンの設定	説明
コンテンツ	
デバイス管理	
ローカルデバイスのログ	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。
デバイスの更新スケジュール	デバイスの更新間隔を設定します。
ZENworks エージェント	ZENworks エージェントを設定します。
システム更新エージェント	ZENworks エージェントでシステム更新動作を設定します。
登録	登録設定を構成します。
ZENworks Explorer 設定	管理対象デバイス上での ZENworks Explorer の動作を設定します。
システム変数	システム変数を設定します。
起動前サービス	プレブートサービスを設定します。
プライマリユーザ	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。
プライマリワークステーション	プライマリワークステーションの決定方法の設定を構成します。
ダイナミックグループの更新スケジュール	ダイナミックグループの更新スケジュールを設定します。
Wake-on-LAN	Wake-on-LAN 設定を構成します。
リモート管理	リモート管理を有効にして設定します。
ディスカバリと展開	
イベントとメッセージング	
インフラ管理	
インベントリ	
レポートサービス	
アセット管理	
バッチ管理	

- 3 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 4 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「管理ゾーン環境設定」を参照するか、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックします。

- 5 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定がデバイスに適用されると、設定がフォルダレベルまたはデバイスレベルで上書きされない限り、設定はゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。

3.5.2 フォルダの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイス] パネル ([管理対象] タブ) で、設定を変更するフォルダを参照します。
- 3 フォルダを見つけたら、フォルダ名の横にある [詳細] をクリックしてフォルダの詳細を表示します。
- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、設定を変更するカテゴリ ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラストラクチャ管理] など) をクリックします。

デバイス > ワークステーション

☰ ▼

ワークステーション

概要 関係 設定

設定		
コンテンツ		
デバイス管理		
カテゴリ	説明	から継承
ローカルデバイスのログ	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)
デバイスの更新スケジュール	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)
ZENworksエージェント	ZENworksエージェントを設定します。	(システム)
システム更新エージェント	ZENworksエージェントでシステム更新動作を設定します。	(システム)
登録	登録設定を構成します。	(システム)
ZENworks Explorer設定	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	(システム)
システム変数	システム変数を設定します。	---
起動前サービス	プレブートサービスを設定します。	---
プライマリユーザ	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---
デバイスの動的名前変更	デバイスの自動名前変更を有効にします。	(システム)
リモート管理	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)
インフラ管理		
インベントリ		
アセット管理		

- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。
設定の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「管理ゾーン環境設定」を参照するか、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックします。
- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定は、設定がサブフォルダまたは個別のデバイス上で上書きされない限り、サブフォルダに含まれるすべてのデバイスを含めフォルダ内のすべてのデバイスによって継承されます。

3.5.3 デバイスでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

- 2 [デバイス] パネル([管理対象] タブ) で、設定を変更するデバイスを参照します。
- 3 デバイスを見つけたら、デバイス名をクリックしてフォルダの詳細を表示します。
- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、設定を変更するカテゴリ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラストラクチャ管理] など) をクリックします。

デバイス > サバ > linux-zcm @ 0 7

linux-zcm

概要	インベントリ	関係	設定	コンテンツ	統計情報	バッチ
設定						
コンテンツ						≡
デバイス管理						≡
カテゴリ	説明				から継承	
ローカルデバイスのログ	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。				(システム)	
デバイスの更新スケジュール	デバイスの更新間隔を設定します。				(システム)	
ZENworksエージェント	ZENworksエージェントを設定します。				(システム)	
システム更新エージェント	ZENworksエージェントでシステム更新動作を設定します。				(システム)	
ZENworks Explorer設定	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。				(システム)	
システム変数	システム変数を設定します。				---	
起動前サービス	ブレード前サービスを設定します。				---	
プライマリユーザ	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。				---	
リモート管理	リモート管理を有効にして設定します。				(システム)	
インフラ管理						≡
インベントリ						≡
アセット管理						≡

- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。
設定の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「管理ゾーン環境設定」を参照するか、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックします。
- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存します。

デバイス管理

管理ゾーンを設定して ZENworks® Adaptive Agent をデバイスに展開したら、デバイスの管理を開始する準備が整ったこととなります。

次のセクションでは、これらの管理タスクの説明と手順について説明します。使用を計画している環境と ZENworks Configuration Management 機能によって、すべてのタスクを実行する方法を知っておくことが必要になる場合があります。学習対象は、任意の順序でレビューできます。

- ◆ 43 ページのセクション 4.1 「ソフトウェアの配布」
- ◆ 45 ページのセクション 4.2 「ポリシーの適用」
- ◆ 47 ページのセクション 4.3 「デバイスのイメージング」
- ◆ 56 ページのセクション 4.4 「デバイスのリモート管理」
- ◆ 64 ページのセクション 4.5 「ソフトウェアのパッチ適用」
- ◆ 68 ページのセクション 4.6 「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」
- ◆ 71 ページのセクション 4.7 「ソフトウェア使用状況の監視」
- ◆ 73 ページのセクション 4.8 「ライセンスコンプライアンスの監視」
- ◆ 80 ページのセクション 4.9 「ライセンスの割り当て」
- ◆ 83 ページのセクション 4.10 「デバイスのリタイア」

4.1 ソフトウェアの配布

ZENworks Configuration Management はソフトウェアの配布に高い柔軟性を提供します。アプリケーションおよび個別ファイルの配布、または単にデバイス上の既存のファイルへの変更を行うことができます。

ソフトウェアはバンドルを使用して配布されます。バンドルは、すべてのファイル、構成設定、インストール指示などから構成され、デバイス上のアプリケーションまたはファイルを展開および管理する必要があります。作成できるバンドルには 4 つのタイプがあります。

- ◆ **ディレクティブバンドル**：1 つまたは複数のアクションをデバイスで実行します。たとえば、ディレクティブバンドルを使用して、Windows INI ファイルまたはテキストファイルを編集できます。スクリプトの実行、サービスの開始または停止、ファイルの削除ができます。さらに、このバンドルには他のさまざまなアクション、特にパーソナリティの保存やパーソナリティの適用などのパーソナリティアクションの作成が含まれます。これらのパーソナリティアクションを使用して、システム設定やアプリケーション設定などのパーソナリティをマイグレートできます。
- ◆ **ファイルバンドル**：ファイルまたはディレクトリをデバイスにコピーまたはインストールします。たとえば、ファイルバンドルを使用して、設定ファイルまたはデータファイルを含めることができます。ファイルバンドルは、Windows バンドルの一部ではないファイルを配布するのに便利です。

- ◆ **イメージングバンドル**：オペレーティングシステムのブート前に操作を実行します。さまざまなイメージングバンドルのタイプを使用して、1つまたは複数のデバイスにイメージをインストールしたり、イメージングバッシュプロンプトから発行できるコマンドが含まれている ZENworks スクリプトを実行できます。
- ◆ **Windows バンドル**：Microsoft Windows Installer (MSI) パッケージ、Microsoft Windows Software Patch (MSP) パッケージ、シンククライアントアプリケーション、またはその他の Windows ベースのアプリケーションを、Windows デバイスに配布します。

バンドルに含まれているソフトウェアは、ZENworks サーバリポジトリにアップロードされます。これにより、ZENworks サーバおよび ZENworks Adaptive Agent が、他のネットワーク場所にアクセスする必要なくソフトウェアを配布することができます。

ソフトウェアバンドルを作成するには、新しいバンドルの作成ウィザードを使用します。バンドルの作成の手助けに加えて、ウィザードでは、デバイスおよびユーザへの割り当てと配布、起動および可用性スケジュールの作成を行うことができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。



- 2 [バンドル] パネルで、[新規作成] > [バンドル] の順にクリックして新規バンドルの作成ウィザードを起動します。

新しいバンドルの作成
ステップ 1: バンドルタイプの選択

オプションのリストから作成するバンドルのタイプを選択します。

新しいバンドルタイプ:	説明:
Windowsバンドル	イメージングバンドル - オペレーティングシステムをデバイスで起動する前に、いくつかの管理対象デバイスに一連のタスクを実行するバンドルを作成するには、このオプションを選択します。
イメージングバンドル	
ディレクトティブバンドル	
ファイルバンドル	

<<戻る 次>> キャンセル

- 3 プロンプトに従って、バンドルの作成、割り当て、およびスケジュールを行います。ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。
- ウィザードを完了すると、バンドルが [バンドル] パネルに追加されます。バンドルをクリックすると、バンドルの詳細の表示および割り当ての変更、スケジュールなどを行うことができます。

zman ユーティリティで `bundle-create` コマンドを使用してソフトウェアバンドルを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「バンドルコマンド」を参照してください。

ソフトウェアの配布の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Software Distribution リファレンス』を参照してください。

4.2 ポリシーの適用

ポリシーを使用すると、デバイスの動作を制御できます。作成できるポリシーには9つのタイプがあります。

- ◆ **ブラウザブックマークポリシー**：Windows デバイスおよびユーザに対して Internet Explorer のお気に入りを設定します。
- ◆ **ダイナミックローカルユーザポリシー**：Windows NT*、Windows 2000、Windows XP ワークステーション、および Windows 2000 と Windows 2003 ターミナルサーバで作成されたユーザを設定します。この設定は、ユーザが Novell® eDirectory™ に正常に認証された後で行います。
- ◆ **ローカルファイル権利ポリシー**：NTFS ファイルシステムにあるファイルまたはフォルダの権利を設定します。

このポリシーは、ローカルとドメインのユーザおよびグループに対する基本的な許可および詳細な許可を設定するために使用できます。これにより、管理者が管理対象デバイスにカスタムグループを作成することができます。

- ◆ **プリンタポリシー**：ローカル、SMB、HTTP、および iPrint プリンタを Windows デバイスおよびユーザ向けに設定します。
- ◆ **リモート管理ポリシー**：管理対象デバイスのリモート管理セッションの動作または実行を設定します。ポリシーには、リモート管理操作、セキュリティなどのプロパティが含まれます。リモート管理ポリシーは、ユーザと管理対象デバイスに割り当てることができます。
- ◆ **ローミングプロファイルポリシー**：ユーザが自分のプロファイルを保存するパスを設定できます。

ユーザプロファイルには、セッション間で維持されるユーザのデスクトップ設定、および個人の環境設定に関する情報が含まれます。

ネットワークパスに保存されているユーザプロファイルは、ローミングプロファイルと呼びます。ユーザがマシンにログオンするたびに、ユーザのプロファイルがネットワークパスからロードされます。これにより、ユーザはマシンを移動しても、常に自分の設定を使用することができます。

- ◆ **SNMP ポリシー**：管理対象デバイスに SNMP パラメータを設定します。
- ◆ **Windows グループポリシー**：グループポリシーを Windows デバイスおよびユーザ向けに設定します。
- ◆ **ZENworks Explorer の環境設定ポリシー**：ZENworks Explorer の動作および機能を集中管理できるようにします。

ポリシーを作成するには、新規ポリシーの作成ウィザードを使用します。ポリシーの作成の手助けに加えて、ウィザードでは、デバイスおよびユーザへの割り当てと、ポリシーを直ちに実施するかまたはデバイスが情報を更新するまで待機するかどうかの決定を行うことができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ポリシー] タブをクリックします。



- 2 [ポリシー] パネルで、[新規] > [ポリシー] の順にクリックして、新規ポリシーの作成ウィザードを起動します。

新規ポリシーの作成

ステップ 1: ポリシータイプの選択

オプションのリストから作成するポリシーのタイプを選択します。

ポリシーの種類:

SNMPポリシー
Windowsグループポリシー
ZENworks Explorer設定ポリシー
ダイナミックローカルユーザポリシー
ブラウザブックマークポリシー
プリンタポリシー
リモート管理ポリシー
ローカルファイル権限ポリシー
ローミングプロファイルポリシー

説明:

ブラウザブックマークポリシー - WindowsデバイスおよびユーザのInternet Explorerのお気に入りの設定に使用するポリシー。

<< 戻る

次 >>

キャンセル

- 3 プロンプトに従って、ポリシーの作成、割り当て、およびスケジュールを行います。ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。
ウィザードを完了すると、ポリシーが [ポリシー] パネルに追加されます。ポリシーをクリックしてポリシーの詳細を表示し、割り当てを修正できます。

zman ユーティリティで `policy-create` コマンドを使用してポリシーを作成することもできます。詳細については、「[ポリシーコマンド](#)」(『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

ポリシーの適用の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Policy Management リファレンス』を参照してください。

4.3 デバイスのイメージング

デバイスのイメージの作成、イメージのデバイスへの適用、およびイメージングスクリプトのデバイス上での実行を行うことができます。ZENworks Configuration Management は Preboot Services 機能を使用して、これらのイメージングタスクをスタートアップ時にデバイス上で実行します。

- ◆ [47 ページのセクション 4.3.1 「Preboot Services の設定」](#)
- ◆ [49 ページのセクション 4.3.2 「イメージの取得」](#)
- ◆ [51 ページのセクション 4.3.3 「イメージの適用」](#)
- ◆ [56 ページのセクション 4.3.4 「詳細の参照場所」](#)

4.3.1 Preboot Services の設定

Preboot Services を使用するには、次のセクションのタスクを完了する必要があります。

- ◆ [48 ページの 「デバイスでの PXE の有効化」](#)
- ◆ [48 ページの 「イメージングサーバの設定」](#)
- ◆ [48 ページの 「サードパーティのイメージング設定の設定」](#)

デバイスでの PXE の有効化

Preboot Services では、イメージを取得または適用するすべての管理対象デバイスで PXE (Preboot Execution Environment) を有効化しておく必要があります。

PXE がデバイスで有効になっているかどうかを確認するには、デバイスを再起動して、ブートオプション (大部分のデバイスでは <F12> キー) を選択します。ネットワークのブートオプションが表示されている場合は PXE が有効になっています。

デバイスで PXE が有効になっていない場合は、デバイスの BIOS を編集して PXE を有効にします。デバイスが起動するたびに PXE 環境を確実に使用できるようにするには、ブート順を変更して、NIC (Network Interface Card) オプションが他のブートオプションより前に表示されるようにします。

イメージングサーバの設定

イメージングサーバとは、デバイスの PXE エンジンが接続する PXE サーバです。ZENworks サーバをイメージングサーバとして機能させるには、ZENworks サーバで Novell Proxy DHCP Service を起動させるだけです。サービスを開始するときには、スタートアップタイプを手動から自動に変更して、サーバが再起動したときに必ず開始するように設定する必要があります。

サードパーティのイメージング設定の設定

サードパーティのイメージングソリューションを使用する場合は、ZENworks コントロールセンターでサードパーティのイメージング設定を行う必要があります。ZENworks は、次のサードパーティのイメージングツールをサポートします。

- ◆ WIM イメージファイル形式および配布に WINPE を使用する Microsoft* ImageX
- ◆ GHOST イメージファイル形式および配布に WINPE を使用する Symantec* GHOST


ZENworks のサードパーティのイメージングでは、ブート方式に PXE のみをサポートします。

サードパーティのイメージングを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターを実行しているデバイス上に Microsoft Windows Automated Installation キット 1.0/1.1 (WAIK) がインストールされていることを確認します。

WAIK は、Microsoft のダウンロードセンター Web サイト (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=c7d4bc6d-15f3-4284-9123-679830d629f2&displaylang=en>) から自由にダウンロードできます。

- 2 (オプション) 64 ビットデバイスで ZENworks コントロールセンターを実行する場合、`WAIK_installation_path\Windows AIK\Tools\x86` を Path Windows システム環境変数に追加します。
- 3 ZENworks コントロールセンターでのサードパーティのイメージングの設定。
 - 3a ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
 - 3b [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] > [Preboot Services] > [サードパーティイメージング設定] パネルの順にクリックします。

3c [WinPE 基本配布のアップロード (Windows Automation Installation キットが必要)] オプションで、 をクリックして、WIM イメージングファイルをアップロードします。[WIM イメージングファイルのアップロード] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。


3c1 [参照] をクリックし、winpe.wim を参照して選択します。


デフォルトでは、winpe.wim は \waik\tools\petools\x86 にインストールされます。

注: Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールするディレクトリを参照してアップロードする前にインストールする必要があります。

3c2 [OK] をクリックします。

これは、サーバから ZENworks コントロールセンターを実行するデバイスにイメージングファイルをダウンロードし、さらに、そのデバイスからサーバにファイルをアップロードします。ファイルのダウンロードおよびアップロードの進行状況は [ステータス] フィールドに表示されます。

3d [WIM イメージングをサポートするための ImageX ファイルのアップロード (ImageX.EXE)] オプションで、 をクリックして、ZENworks コントロールセンターを実行しているデバイスにインストールされている Microsoft イメージングエンジン (imagex.exe) を参照し、選択します。デフォルトでは、\waik\tools\x86 に imagex.exe がインストールされています。

3e [Ghost イメージング (Ghost32.exe) をサポートするために Ghost 11.5. 以降のファイルをアップロード] オプションで、 をクリックして、ネットワーク内の任意のデバイス上に Ghost とともにインストールされている Symantec GhostT エンジン (ghost32.exe) を参照し、選択します。

3f サードパーティのイメージング設定を行った後、[適用] をクリックします。

3g 管理ゾーンに含まれるすべてのプライマリサーバにおけるコンテンツの複製ステータスを表示するには、[ステータス] をクリックします。ステータスが [使用可能] の場合にのみイメージング操作を開始できます。

重要: ステータスが [使用可能] の場合にのみイメージング操作を開始できません。

4 デバイスの PXE を有効にします。

5 イメージングサーバまたは別のネットワークサーバに標準の DHCP サーバが配置してあることを確認してください。

4.3.2 イメージの取得

1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

2 イメージを取得したいデバイスが見つかるまで [サーバ] または [ワークステーション] フォルダを移動します。


3 デバイスをクリックして詳細を表示します。





4 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[イメージの取得] をクリックして、イメージの取得ウィザードを起動します。

5 [ファイル情報] ページで、次のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

イメージ形式: デバイス用に取得されるイメージの形式を選択します。

サーバおよびファイルパス:  をクリックして、[サーバとパス情報] ダイアログボックスを表示します。次のオプションを設定します。


- **サーバオブジェクト / IP/DNS:**  のアイコンをクリックして、イメージングサーバの役割に昇格するオブジェクト、IP アドレス、またはプライマリサーバまたはデバイスの DNS 名を参照して選択します。
- **サーバ上のファイルパス:**  アイコンをクリックして、イメージファイルを参照して選択します。イメージファイルには、.zmg という、有効な ZENworks のイメージファイルであることを示す拡張子が含まれる必要があります。

注: Linux 用に DHCP を使用する複数の検索ドメインが設定されており、サーバが Windows で動作している場合は、指定したファイルシステムを参照できません。

イメージファイル用の共有ネットワークパス: 共有ネットワークパスを指定します。wim または .gho ファイルを保存する共有ネットワークパスを指定します。ディレクトリは、Windows 共有または Linux SMB または CIFS 共有にしてください。

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールするディレクトリを参照してアップロードする前にインストールする必要があります。

イメージファイル名: 次のファイルを保存するファイル名を指定します .wim または .gho ファイルを保存するファイル名を指定します。このオプションは、Windows イメージングフォーマットでのみ表示されます (.wim) および Ghost イメージングフォーマット (.gho)。

ネットワーク資格情報:  をクリックして、.wim ファイルを持つデバイスにアクセスするために使用されるネットワーク資格情報を参照して選択します。このオプションは、Windows イメージ形式 (.wim) および GHOST イメージ形式 (.gho) でのみ表示されます。

圧縮の使用: 圧縮が必要です。次のうちのいずれかを選択してください:

- ◆ **バランス:** 再イメージングのスピードの平均とイメージファイルが利用できるディスク領域の間で自動的に圧縮をバランスします。このオプションは、ZENworks イメージ形式でのみ表示されます
- ◆ **なし:** このオプションは、Windows イメージ形式および GHOST イメージ形式にのみ表示されます。
- ◆ **スピード重視:** 再イメージング時間が最短になるように圧縮を最適化します。CPU 速度が問題になっている場合は、このオプションを使用します。
- ◆ **容量重視:** ディスク領域を節約するようにイメージファイルのサイズを最小化するように圧縮を最適化します。このオプションを選択すると、再イメージング処理が長くなる可能性があります。

[バランス] は ZENworks イメージ形式のデフォルトオプションです。そして [スピード重視] は Windows イメージ形式と GHOST イメージ形式のデフォルトオプションです。

イメージバンドルの作成: このフィールドは選択解除したままにしてください。

- 6 [イメージファイルサマリ] ページの情報を確認し、[終了] をクリックし、次に [OK] をクリックします。

イメージングタスクは Preboot Services によって完了されるため、デバイスのイメージはデバイスが次に再起動されたときに取得されます。[イメージングワーク] パネルはデバイスの [サマリ] ページにあり、ワークがスケジュールされていることを示します。ワークが完了すると、このパネルからタスクが削除されます。

- 7 デバイスを直ちに再起動してイメージングワークを開始するには、左ナビゲーションパネルの [ワークステーションの再起動/シャットダウン] (または [サーバの再起動/シャットダウン]) をクリックします。

イメージの取得に必要な時間は、デバイスのドライブのサイズに依存します。

4.3.3 イメージの適用

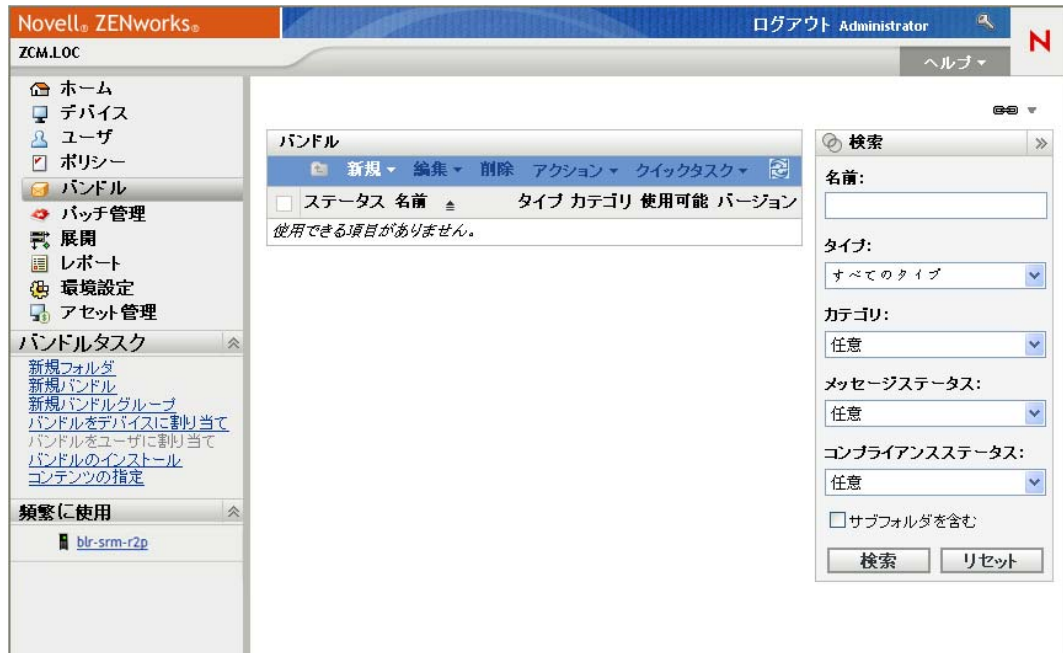
イメージをデバイスに適用するには、新しいバンドルの作成 ウィザードを使用してイメージングバンドルを作成します。バンドルには適用したいイメージが含まれます。バンドルの作成の手助けに加えて、ウィザードでは、デバイスへの割り当てを行うことができます。イメージングバンドルを作成した後に、イメージングワークを開始します。

- ◆ [51 ページの「ZENworks イメージバンドルの作成」](#)
- ◆ [53 ページの「サードパーティのイメージバンドルの作成」](#)
- ◆ [55 ページの「イメージングワークの開始」](#)

ZENworks イメージバンドルの作成

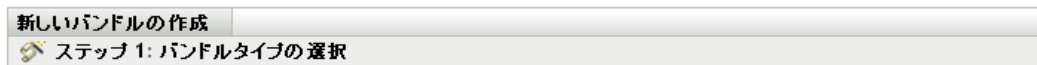
ZENworks イメージをデバイスに復元するには、ZENworks イメージバンドルを作成する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。

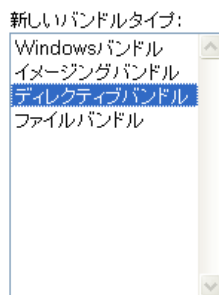


- 2 [バンドル] パネルで、[新規作成] > [バンドル] の順にクリックして新規バンドルの作成ウィザードを起動します。

[バンドル](#) > [新しいバンドルの作成](#)

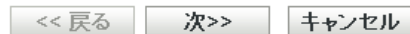


オプションのリストから作成するバンドルのタイプを選択します。




説明:

ディレクティブバンドル - プラットフォームに関係なく、いくつかの管理対象デバイスに対して一連のタスクを実行するバンドルを作成するには、このオプションを選択します。



- 3 [バンドルタイプの選択] ページで、[イメージングバンドル] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 [バンドルカテゴリの選択] ページで、[ZENworks イメージ] を選択して、[次へ] をクリックします。

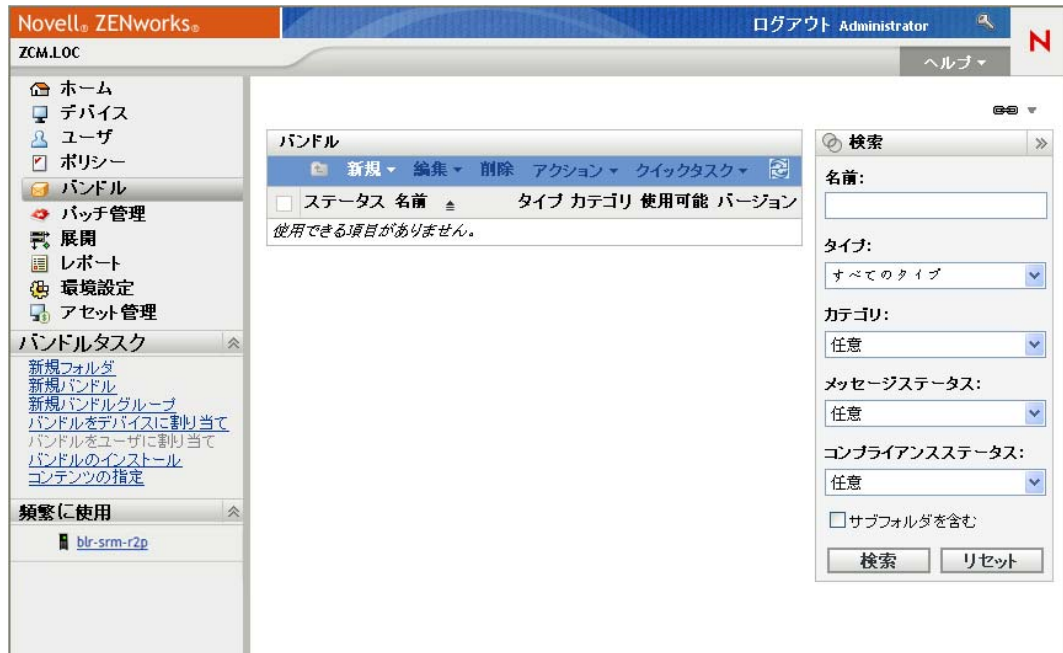
5 次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
詳細の定義ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。` \ * ? : " ' < > ` % ~`
ZENworks イメージファイルの選択ページ	イメージファイルを選択するには、次の手順に従います。 <ol style="list-style-type: none">1.  をクリックして、[サーバとパス情報] ダイアログボックスを表示します。2. 次のフィールドに入力します。 デバイスオブジェクト、IP、または DNS: イメージを保存した ZENworks サーバを選択します。 サーバ上のファイルパス: イメージファイルを参照して選択します。イメージファイルの標準保存ディレクトリは、<code>\Novell\ZENworks\work\content-repo\images</code> です。3. [OK] をクリックします。
[サマリ] ページ	[次へ] をクリックしてウィザードを続行し、バンドルを目的のデバイスに割り当てます。
[バンドルグループ] ページ	イメージバンドルはグループに割り当てないでください。[次へ] をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[割り当ての追加] ページ	イメージを適用するデバイスを選択します。
[スケジュール] ページ	スケジュールをイメージバンドルに割り当てないでください。[次へ] をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[完了] ページ	[完了] をクリックして、バンドルを作成して選択したデバイスに割り当てます。

サードパーティのイメージバンドルの作成

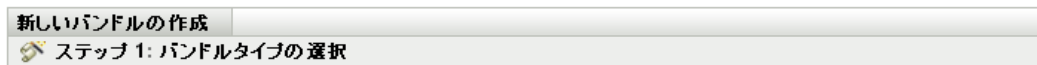
サードパーティのイメージを復元するには、サードパーティのイメージバンドルを作成する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。

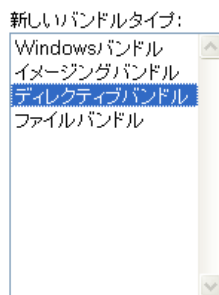


- 2 [バンドル] パネルで、[新規作成] > [バンドル] の順にクリックして新規バンドルの作成ウィザードを起動します。

[バンドル](#) > [新しいバンドルの作成](#)

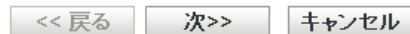


オプションのリストから作成するバンドルのタイプを選択します。




説明:

ディレクティブバンドル - プラットフォームに関係なく、いくつかの管理対象デバイスに対して一連のタスクを実行するバンドルを作成するには、このオプションを選択します。



- 3 [バンドルタイプの選択] ページで、[イメージングバンドル] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 [バンドルカテゴリの選択] ページで、[サードパーティのイメージ] を選択して、[次へ] をクリックします。

5 次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
詳細の定義ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。` \ * ? : " ' < > ` % ~`
[サードパーティのイメージファイルの選択] ページ	<p>サードパーティのイメージファイルを選択するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> バンドルで使用されるイメージのタイプを選択します。 ZENworks 10 Configuration Management SP3 では、Windows イメージ形式 (.wim) と GHOST イメージ形式 (.gho) のみを使用できます。 .wim または .gho ファイルを持つ共有ネットワークディレクトリを指定します。ディレクトリは、Windows 共有または Linux SMB または CIFS 共有にしてください。  をクリックして、.wim または .gho ファイルを持つデバイスにアクセスするために使用するネットワーク資格情を参照して選択します。 WIM バンドルをアドオンイメージとして使用する場合は、[WIM をアドオンとして復元] を選択し、次のオプションを設定します。 イメージ番号 (WIM のみ): 復元するイメージのインデックス番号を選択します。 アドオンイメージを復元するパス: アドオンイメージを復元するデバイスのロケーションを指定します。 [OK] をクリックします。
[サマリ] ページ	[次へ] をクリックしてウィザードを続行し、バンドルを目的のデバイスに割り当てます。
[バンドルグループ] ページ	イメージバンドルはグループに割り当てないでください。[次へ] をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[割り当ての追加] ページ	イメージを適用するデバイスを選択します。
[スケジュール] ページ	スケジュールをイメージバンドルに割り当てないでください。[次へ] をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[完了] ページ	[完了] をクリックして、バンドルを作成して選択したデバイスに割り当てます。

イメージングワークの開始

- ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- イメージを適用するデバイスが見つかるまで [サーバ] または [ワークステーション] フォルダを移動します。
- デバイスをクリックして詳細を表示します。
- 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[割り当てられたイメージングバンドルの適用] をクリックして、ワークをスケジュールします。

イメージングタスクは Preboot Services によって完了されるため、イメージはデバイスが次に再起動されたときにデバイスに適用されます。[イメージングワーク] パネルはデバイスの [サマリ] ページにあり、ワークがスケジュールされていることを示します。ワークが完了すると、このパネルからタスクが削除されます。

- 5 デバイスを直ちに再起動してイメージングワークを開始するには、左ナビゲーションパネルの [ワークステーションの再起動/シャットダウン] (または [サーバの再起動/シャットダウン]) をクリックします。

4.3.4 詳細の参照場所

イメージングおよび Preboot Services の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Preboot Services およびイメージングリファレンス』を参照してください。

4.4 デバイスのリモート管理

ZENworks Configuration Management は、デバイスをリモートで管理できるリモート管理機能を提供します。リモート管理では、次の操作をサポートします。

- ◆ **リモートコントロール**：管理コンソールから管理対象デバイスをリモートコントロールできます。これにより、ユーザをサポートし、問題の解決を支援できます。ユーザがデバイスで実行できるすべての操作を実行できます。
- ◆ **リモートビュー**：管理対象デバイスをコントロールするのではなく、管理対象デバイスに接続して管理対象デバイスを表示できるようにします。これは、ユーザに発生した問題を解決する際に役立ちます。たとえば、管理対象デバイスのユーザが特定の操作を実行している様子を監視し、その実行方法が間違っていないかどうかを確認できます。
- ◆ **リモート実行**：管理コンソールから管理対象デバイスですべての実行可能ファイルを実行できます。リモートでアプリケーションを実行するには、[リモート実行] ダイアログボックスで実行名を指定します。アプリケーションが管理対象デバイス上のシステムパスにない場合は、アプリケーションの完全なパスを指定します。たとえば、regedit コマンドを実行して、管理対象デバイスでレジストリエディタを開くことができます。[リモート実行] ダイアログボックスには、コマンド実行のステータスが表示されます。
- ◆ **リモート診断**：管理対象デバイス上の問題を診断し、分析できます。これにより、問題の解決に要する時間が短縮されると共に、問題の発生しているデバイスまで技術者が出向くことなく、問題を抱えているユーザを支援できるようになります。デスクトップを稼働させたまま診断を実行できるため、ユーザ側の生産性も向上します。
- ◆ **ファイル転送**：管理コンソールと管理対象デバイス間でファイルを転送できます。

次のセクションでは、リモート管理の設定および各操作の実行方法について説明します。

- ◆ 57 ページのセクション 4.4.1 「リモート管理ポリシーの作成」
- ◆ 58 ページのセクション 4.4.2 「リモート管理設定」
- ◆ 59 ページのセクション 4.4.3 「リモートコントロール、リモートビュー、およびリモート実行操作の実行」
- ◆ 61 ページのセクション 4.4.4 「リモート診断操作の実行」
- ◆ 63 ページのセクション 4.4.5 「ファイル転送操作の実行」
- ◆ 64 ページのセクション 4.4.6 「詳細の参照場所」

4.4.1 リモート管理ポリシーの作成

デフォルトでは、デバイス上で ZENworks Adaptive Agent がリモート管理コンポーネントと共に展開されている場合は、管理対象デバイス上にセキュアリモート管理ポリシーが作成されます。デフォルトポリシーを使用してデバイスをリモートで管理できます。デフォルトポリシーを使用すると、デバイスに対するすべてのリモート管理操作を実行できます。デフォルトポリシーを上書きするには、デバイスに明示的にリモート管理ポリシーを作成します。

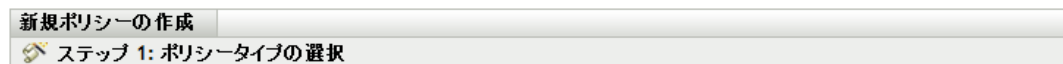
リモート管理ポリシーは、デバイスまたはユーザに対して割り当てることができます。

リモート管理ポリシーを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ポリシー] タブをクリックします。



- 2 [ポリシー] パネルで、[新規] > [ポリシー] の順にクリックして、新規ポリシーの作成ウィザードを起動します。



オプションのリストから作成するポリシーのタイプを選択します。

ポリシーの種類:	説明:
SNMPポリシー	ブラウザブックマークポリシー - Windowsデバイスおよびユーザの Internet Explorer のお気に入りの設定に使用するポリシー。
Windowsグループポリシー	
ZENworks Explorer設定ポリシー	
ダイナミックローカルユーザポリシー	
ブラウザブックマークポリシー	
プリンタポリシー	
リモート管理ポリシー	
ローカルファイル権限ポリシー	
ローミングプロファイルポリシー	

<< 戻る 次 >> キャンセル

- 3 プロンプトに従って、リモート管理ポリシーの作成、割り当て、およびスケジュールを行います。

ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。ウィザードを完了すると、ポリシーが [ポリシー] パネルに追加されます。ポリシーをクリックすると、ポリシーの詳細の表示および割り当ての変更、スケジュールなどを行うことができます。

4.4.2 リモート管理設定

[設定] ページのリモート管理設定では、リモート管理ポート、セッションパフォーマンス、および使用可能な診断アプリケーションなどを指定できます。

設定は事前定義されており、最も一般的な設定が提供されています。設定を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] > [リモート管理] の順にクリックします。

リモート管理

リモート管理を有効にして設定します。

リモート管理設定

サービス設定

リモート管理サービスをポートで実行

セッション設定

リモートセッションの開始時に、ビューアのDNS名を検索する

管理対象デバイスにユーザがログインしていない場合は、リモートセッションを許可

リモートセッション中の実行設定

壁紙を抑制

最適化ドライバを有効にする

プロキシ設定

追加 削除

<input type="checkbox"/> プロキシ	IPアドレス範囲	ポート
<input type="checkbox"/>	10.10.1.1	5850

リモート診断中にデバイスで起動されるアプリケーションを設定

診断アプリケーション

追加 削除 元に戻す

<input type="checkbox"/> アプリケーション	パス
<input type="checkbox"/> システム情報	\$(CommonProgramFiles)\Microsoft Shared\MSInfo\msinfo32.exe
<input type="checkbox"/> コンピュータ管理	\$(windir)\System32\compmgmt.msc
<input type="checkbox"/> サービス	\$(windir)\System32\services.msc
<input type="checkbox"/> レジストリエディタ	\$(windir)\regedit.exe

3 必要に応じて、設定を変更します。

各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されま
す。

4 設定の変更が終わったら、[適用] または [OK] をクリックして変更を保存します。

4.4.3 リモートコントロール、リモートビュー、およびリモート実行操作の実行

1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。

2 管理するデバイスが見つかるまで [サーバ] または [ワークステーション] フォルダを
移動します。

3 デバイスの前にあるチェックボックスをクリックしてデバイスを選択します。

- 4 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[リモートコントロールワークステーション] または [リモートコントロールサーバ] をクリックして、[リモート管理] ダイアログボックスを表示します。

- 5 [リモート管理] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

デバイス: リモートで管理するデバイスの名前または IP アドレスを指定します。

説明: 管理対象デバイスで実行するリモート操作のタイプ ([リモートコントロール]、[リモートビュー]、または [リモート実行]) を選択します。

認証: 管理対象デバイスを認証するために使用するモードを選択します。オプションには次の 2 つがあります。

- ◆ **パスワード:** パスワードベース認証を提供して、リモートコントロール操作を実行します。ユーザが管理対象デバイスで設定したパスワードか、または管理者がリモート管理ポリシーのセキュリティ設定で設定したパスワードを正しく入力する必要があります。ユーザが設定したパスワードは、管理者が設定したパスワードより優先されます。
- ◆ **権利:** このオプションは、リモート操作を実行する管理対象デバイスを選択した場合のみ使用できます。選択した管理対象デバイスで目的のリモート操作を実行するリモート管理権が管理者より割り当てられている場合、セッション開始時に自動的にアクセス権を取得します。

ポート: リモート管理エージェントがリスンするポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 5950 です。

セッションモード : 次のいずれかのセッションモードを選択します。

- ◆ **コラボレート** : コラボレーションモードでリモートコントロールセッションとリモート表示セッションを起動できます。ただし、管理対象デバイスで、最初にリモートビューセッションを起動することはできません。リモートコントロールセッションを管理対象デバイスで最初に起動した場合、次に示すマスタリモートオペレータのすべての権限が得られます。
 - ◆ 他のリモートオペレータにリモートセッションに参加するように呼びかける
 - ◆ リモートコントロール権をリモートオペレータに委任する
 - ◆ コントロールをリモートオペレータから再取得する
 - ◆ リモートセッションを終了する

コラボレーションモードで管理対象デバイスのリモートコントロールセッションが確立すると、管理対象デバイスのその他のリモートセッションはリモートビューセッションになります。

- ◆ **共有** : 複数のリモートオペレータで同時に管理対象デバイスをコントロールできます。
- ◆ **排他的** : 管理対象デバイスに対する排他的なリモートセッションを使用できます。セッションが排他モードで開始されると、他のリモートセッションは、管理対象デバイスで開始できなくなります。

セッションの暗号化 : SSL 暗号化 (TLSv1 プロトコル) を使用してリモートセッションのセキュリティを保持します。

キャッシング有効 : リモート管理セッションデータのキャッシングを有効にしてパフォーマンスを向上させます。このオプションは、リモート管理操作に対してのみ利用できます。このオプションは、現在 Windows でのみサポートされています。

帯域幅の動的な最適化の有効化 : 使用可能なネットワーク帯域幅の検出を有効にし、それに従ってセッション設定を調整してパフォーマンスを強化します。このオプションは、リモート管理操作に対してのみ利用できます。

ログを有効にする : セッションおよびデバッグ情報を novell-zenworks-vncviewer.txt ファイルに記録します。ファイルのデフォルトの保存場所は、Internet Explorer から ZENworks コントロールセンターを起動した場合はデスクトップで、Mozilla FireFox* から ZENworks コントロールセンターを起動した場合は Mozilla のインストールディレクトリです。

リモート管理ビューアのインストール : [リモート管理ビューアのインストール] リンクをクリックして、リモート管理ビューアをインストールします。このリンクが表示されるのは、管理対象デバイスで初めてリモート管理セッションを実行している場合、またはリモート管理ビューアが管理対象デバイスにインストールされていない場合だけです。

6 [OK] をクリックして、セッションを起動します。

4.4.4 リモート診断操作の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 管理するデバイスが見つかるまで [サーバ] または [ワークステーション] フォルダを移動します。
- 3 デバイスの前にあるチェックボックスをクリックしてデバイスを選択します。

- 4 左側のナビゲーションウィンドウのタスクリストで、[リモート診断] をクリックして [リモート診断] ダイアログボックスを表示します。

リモート診断

デバイス

アプリケーション

認証

[オプションを非表示](#)

ポート:

セッションモード 協同 共用 単独的

セッション暗号化

キャッシング有効

帯域幅の動的最適化

ログを有効にする

プロキシ経由のルート

プロキシ

プロキシポート

[リモート管理ビューアのアップグレード](#)

- 5 [リモート診断] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

デバイス: リモートで診断するデバイスの名前または IP アドレスを指定します。

アプリケーション: リモートで診断するデバイスで起動するアプリケーションを選択します。

認証: 管理対象デバイスを認証するために使用するモードを選択します。オプションには次の 2 つがあります。

- ◆ **パスワード:** リモート診断操作を実行するパスワードベース認証を提供します。ユーザが管理対象デバイスで設定したパスワードか、または管理者がリモート管理ポリシーのセキュリティ設定で設定したパスワードを正しく入力する必要があります。ユーザが設定したパスワードは、管理者が設定したパスワードより優先されます。
- ◆ **権利:** このオプションは、リモート操作を実行する管理対象デバイスを選択した場合のみ使用できます。選択した管理対象デバイスで目的のリモート操作を実行するリモート管理権が管理者より割り当てられている場合、セッション開始時に自動的にアクセス権を取得します。

ポート: リモート管理エージェントがリスンするポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 5950 です。

セッションモード: リモート診断操作には適用されません。

セッションの暗号化: SSL 暗号化 (TLSv1 プロトコル) を使用してリモートセッションのセキュリティを保持します。

キャッシング有効: リモート管理セッションデータのキャッシングを有効にしてパフォーマンスを向上させます。このオプションは、現在 Windows でのみサポートされています。

帯域幅の動的な最適化の有効化: 使用可能なネットワーク帯域幅の検出を有効にし、それによってセッション設定を調整してパフォーマンスを強化します。

ログを有効にする: セッションおよびデバッグ情報を novell-zenworks-vncviewer.txt ファイルに記録します。ファイルのデフォルトの保存場所は、Internet Explorer から ZENworks コントロールセンターを起動した場合はデスクトップで、Mozilla FireFox から ZENworks コントロールセンターを起動した場合は Mozilla のインストールディレクトリです。

6 [OK] をクリックして、セッションを起動します。

4.4.5 ファイル転送操作の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 管理するデバイスが見つかるまで [サーバ] または [ワークステーション] フォルダを移動します。
- 3 デバイスの前にあるチェックボックスをクリックしてデバイスを選択します。
- 4 左側のナビゲーションウィンドウのタスクリストで、[リファイル転送] をクリックして [ファイル転送] ダイアログボックスを表示します。

ファイル転送

デバイス: blr-srm-r13t

認証: 権限

オプションを非表示

ポート: 5950

セッションモード: 協同 共用 単独的

セッション暗号化:

キャッシング有効:

帯域幅の動的最適化:

ログを有効にする:

プロキシ経由のルート

プロキシ:

プロキシポート:

OK キャンセル

[リモート管理ビューアのアップグレード](#)

5 [ファイル転送] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

デバイス : アクセスするデバイスの名前または IP アドレスを指定します。

認証 : 管理対象デバイスを認証するために使用するモードを選択します。オプションには次の 2 つがあります。

- ◆ **パスワード** : パスワードベース認証を提供して、操作を実行します。ユーザが管理対象デバイスで設定したパスワードか、または管理者がリモート管理ポリシーのセキュリティ設定で設定したパスワードを正しく入力する必要があります。ユーザが設定したパスワードは、管理者が設定したパスワードより優先されます。
- ◆ **権利** : このオプションは、リモート操作を実行する管理対象デバイスを選択した場合のみ使用できます。選択した管理対象デバイスで目的のリモート操作を実行するリモート管理権が管理者より割り当てられている場合、セッション開始時に自動的にアクセス権を取得します。

ポート : リモート管理エージェントがリスンするポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 5950 です。

セッションモード : ファイル転送操作には適用されません。

セッションの暗号化 : SSL 暗号化 (TLSv1 プロトコル) を使用してリモートセッションのセキュリティを保持します。

ログを有効にする : セッションおよびデバッグ情報を novell-zenworks-vncviewer.txt ファイルに記録します。ファイルのデフォルトの保存場所は、Internet Explorer から ZENworks コントロールセンターを起動した場合はデスクトップで、Mozilla FireFox から ZENworks コントロールセンターを起動した場合は Mozilla のインストールディレクトリです。

6 [OK] をクリックして、セッションを起動します。

4.4.6 詳細の参照場所

デバイスのリモート管理の詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management Remote Management リファレンス](#)』を参照してください。

4.5 ソフトウェアのパッチ適用

ZENworks Patch Management は個別にライセンス許可される製品であり、評価用として ZENworks Configuration Management に含まれています。Patch Management を使用すると、ソフトウェアパッチを自動的に一貫して適用して脆弱性および問題を最小限にすることができます。

Patch Management は、インターネット経由で Patchlink パッチサブスクリプションサービスと定期的に通信して最新のパッチとフィックスを入手することで、常に最新の状態を保ちます。最初の 60 日間の試用期間が過ぎると、Patch Management の最新脆弱性およびパッチ情報の日次ダウンロードを継続するには有料申し込みが必要です。

新しいパッチがサブスクリプションサービスから利用可能になると、ZENworks サーバは自動的にパッチをダウンロードします。[パッチ] タブには、最新のパッチと一緒にその説明およびビジネスへの影響が示されています。パッチはデバイスに展開するか、またはパッチを破棄することもできます。

- ◆ 65 ページのセクション 4.5.1 「サブスクリプションライセンスの購入とアクティベート」
- ◆ 65 ページのセクション 4.5.2 「新しいパッチ管理ライセンスの提供」
- ◆ 66 ページのセクション 4.5.3 「サブスクリプションサービスの開始」
- ◆ 67 ページのセクション 4.5.4 「パッチの展開」
- ◆ 68 ページのセクション 4.5.5 「パッチ管理ライセンスの更新」
- ◆ 68 ページのセクション 4.5.6 「詳細の参照場所」

4.5.1 サブスクリプションライセンスの購入とアクティベート

60 日間の評価期間が過ぎると、引き続きサブスクリプションサービスからパッチを受け取るには、Patch Management のサブスクリプションライセンスが必要になります。このサブスクリプションライセンスを購入するには、[Novell ZENworks Patch Management 製品サイト \(http://www.novell.com/products/zenworks/patchmanagement\)](http://www.novell.com/products/zenworks/patchmanagement) を参照してください。

ライセンスをアクティブ化するには、65 ページのセクション 4.5.2 「新しいパッチ管理ライセンスの提供」に進みます。

4.5.2 新しいパッチ管理ライセンスの提供

ZENworks Configuration Management のインストール中にパッチ管理サブスクリプションライセンスを指定しなかった場合 (評価版ライセンスを使用している場合)、後で ZENworks コントロールセンターで購入したサブスクリプションライセンスを指定できます。

新しいサブスクリプションライセンスをアクティブ化するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [ライセンス] パネルで、[ZENworks 10 Patch Management] をクリックします。
- 3 次のフィールドに入力します。
製品サブスクリプションのシリアル番号 : サブスクリプションライセンスを購入したときに提供された、シリアル番号。
会社名 : サブスクリプションライセンスの購入に使用した、ユーザの会社名。
メールアドレス : 必要なときに連絡ができる、メールアドレス。
- 4 [適用] をクリックします。

4.5.3 サブスクリプションサービスの開始

パッチの受け取りを開始する前に、ZENworks サーバのいずれかでサブスクリプションサービスを開始し、パッチのダウンロード用のデリースケジュールを設定する必要があります。

管理ゾーンに複数の ZENworks サーバがある場合は、任意の 1 つを選択してパッチ管理サーバに指定することができます。パッチ管理サーバとして選択されたサーバは、新しいパッチとアップデートを毎日ダウンロードするために、インターネットに最適な状態で接続できる必要があります。

パッチ管理サーバを選択できるのは、このリリースのゾーンごとに 1 回だけです。

サブスクリプションサービスを開始するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	システム更新	アセット管理
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
ディスクバリと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートサービス					
アセット管理					
パッチ管理					
カテゴリ		説明			
サブスクリプションサービス情報		サブスクリプションログを表示してサブスクリプション設定を更新する。			
HTTPプロキシの環境設定		インターネットパッチサブスクリプションにアクセスするためのHTTPプロキシの環境設定を行う。			
サブスクリプションダウンロード		サブスクリプションダウンロードオプションを設定する。			
強制的なベースライン設定		強制的なベースラインインストールの動作に関するグローバル値を設定する。			

- 2 [管理ゾーン設定] パネルで、[パッチ管理] をクリックし、[サブスクリプションサービス情報] をクリックします。

環境設定 > サブスクリプションサービス情報 ☰ ▼

サブスクリプションサービス情報 ✕

サブスクリプションログを表示してサブスクリプション設定を更新する。

サブスクリプションサービス情報 ⌵

サブスクリプションサービスの開始 デバイス/サーバ/linux-zcm ▼ サービス実行中

最後のサブスクリプションポール

サブスクリプションレプリケーションステータス

サブスクリプションホスト novell.patchlink.com

サブスクリプション通信間隔(毎日) 00:00 ▼ 今すぐ更新

ZENworks Patch Management設定のリセット

サブスクリプションサービス履歴 ⌵

アクション ▼

タイプ	ステータス	開始日	終了日	期間	成功	エラー詳細(存在する場合)
使用できる項目がありません。						

OK 適用 リセット キャンセル

- 3 [サブスクリプションサービスの開始] リストで、サブスクリプションサービスを実行する ZENworks サーバを選択して、[サービスの開始] をクリックします。
サブスクリプションサービスの実行が開始されると、[サービスの開始] ボタンが [実行中のサービス] になります。
- 4 [サブスクリプション通信インターバル(毎日)] リストで、毎日パッチをダウンロードする時刻を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

4.5.4 パッチの展開

パッチを展開するには、改善の展開ウィザードを使用します。ウィザードでは、パッチが適用されるデバイスのみを一覧表示し、パッチを適用しないデバイスを選択解除することができます。また、いつパッチを展開するかをスケジュールすることができます。

次の手順は、1つまたは複数のパッチがサブスクリプションサービスから利用可能であると想定しています。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[パッチ管理] タブをクリックします。
- 2 [パッチ] タブで、パッチの前のチェックボックスをクリックして展開するパッチを選択し、[アクション] > [改善の展開] をクリックし、改善の展開ウィザードを起動します。
- 3 プロンプトに従って、パッチを展開します。
ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。

4.5.5 パッチ管理ライセンスの更新

パッチを受け取るライセンスの期限が切れた場合、TID 3077372 の手順を使用してライセンスを更新してください。Novell のサポート Web サイト (<http://www.novell.com/support/microsites/microsite.do>) を参照してください。

4.5.6 詳細の参照場所

ソフトウェアのパッチ適用の詳細については、『ZENworks 10 Patch Management リファレンス』を参照してください。

4.6 ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集

ZENworks Configuration Management を使用して、デバイスからソフトウェアおよびハードウェアの情報を収集できます。個々のデバイスのインベントリを表示し、特定の基準に基づいてインベントリレポートを生成できます。

たとえば、特定のプロセッサ、メモリ、およびディスク容量要件を持つソフトウェアアプリケーションを配布したい場合があります。1 つは要件を満たすすべてのデバイスを一覧表示し、1 つは要件を満たさないデバイスを一覧表示した 2 つのレポートを作成します。レポートに基づいて、ソフトウェアを準拠デバイスに配布し、非準拠デバイスにアップグレード計画を作成します。

デフォルトでは、デバイスは毎月 1 日の AM1:00 に自動的にスキャンされます。スケジュールおよびその他多くの [インベントリ] 環境設定を ZENworks コントロールセンター [環境設定] タブで変更することができます。

- ◆ [68 ページのセクション 4.6.1 「デバイススキャンの開始」](#)
- ◆ [69 ページのセクション 4.6.2 「デバイスインベントリの表示」](#)
- ◆ [70 ページのセクション 4.6.3 「インベントリレポートの生成」](#)
- ◆ [71 ページのセクション 4.6.4 「詳細の参照場所」](#)

4.6.1 デバイススキャンの開始

デバイスのスキャンはいつでも開始できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 スキャンするデバイスが見つかるまで [サーバ] または [ワークステーション] フォルダを移動します。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。



- 4 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[サーバインベントリスキャン] または [ワークステーションインベントリスキャン] をクリックしてスキャンを開始します。

[クイックタスクステータス] ダイアログボックスにはタスクの状態が表示されます。タスクが完了したら、[インベントリ] タブをクリックしてスキャンの結果を表示します。

zman ユーティリティで `inventory-scan-now` コマンドを使用してデバイスをスキャンすることもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドライン ユーティリティリファレンス』の「インベントリコマンド」を参照してください。

4.6.2 デバイスインベントリの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 スキャンするデバイスが見つかるまで [サーバ] または [ワークステーション] フォルダを移動します。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。

4 [インベントリ] タブをクリックします。

[デバイス](#) > [ワークステーション](#) > blr-s

blr-s

概要 インベントリ 関係 設定 コンテンツ ペッチ

概要

最後にスキャンした日付: 4/21

ホスト名: dmvirfr

部署:

位置:

[ハードウェア/ソフトウェアのインベントリの詳細](#)

ハードウェア:

備品タグ:	No Asset Tag
シリアル番号:	
システム:	Pentium D 2800 System
オペレーティングシステム:	Microsoft Windows XP Professional 5.1.2600 Service Pack 2 Build 2600
MACアドレス:	000C299258B3
合計メモリ:	512 MB
ハードディスク空き容量:	6 GB
ハードディスク合計容量:	8.59 GB

4.6.3 インベントリレポートの生成

ZENworks Configuration Management は、いくつかの標準レポートを含んでいます。また、インベントリ情報の異なるビューを提供するためにカスタムレポートを作成することができます。

1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。

Novell, ZENworks. ログアウト administrator ヘルプ

ORA-10.2A-10.2

ホーム デバイス ユーザ ポリシー バンドル パッチ管理 展開 レポート 環境設定 アセット管理 頻繁に使用

ZENworksレポートインテグレーション

ZENworksレポートインテグレーションInfoView

インベントリ標準レポート

グループ

- デバイスリスト
- ソフトウェアアプリケーション
- ソフトウェアファイル
- ハードウェアコンポーネント
- アップグレード準備完了

インベントリカスタムレポート

新規 編集 削除 アクション

名前	レポートカウント
ハードウェアコンポーネント	4
ローカル製品の作成	2
ソフトウェアアプリケーション	7
システム	7

1-4/4 10 項目の表示

2 [インベントリ標準レポート] パネルで、[ソフトウェアアプリケーション] をクリックします。

レポート	
名前	説明
アンチウイルス/アンチスパイウェア詳細	インストールされているデバイスへのリンクのあるアンチウイルス/アンチスパイウェア定義ファイル
カテゴリによるソフトウェアアプリケーション	カテゴリおよびサブカテゴリによるインストール済みソフトウェア製品のカウント
製造元によるソフトウェアアプリケーション	製造元によるインストール済みソフトウェア製品のカウント
OSおよび製品によるソフトウェアアプリケーション	製品名によるインストール済みソフトウェア製品のカウント
シリアル番号の複製	同じシリアル番号の複数インスタンスでインストールされたソフトウェア製品のリスト
高帯域幅アプリケーション	KaZaaおよびGnutellaなどの一般的なマルチメディアおよびファイル共有アプリケーションのカウント
ホットフィックス詳細	インストールされているデバイスのリストへのリンクのある、ホットフィックスおよびセキュリティパッチ
Microsoft製品	Microsoft特有の分類によってグループ化された、インストール済みMicrosoft製品のカウント
オペレーティングシステム	インストール済みオペレーティングシステムによるデバイスのカウント
OSサービスパック	インストール済みオペレーティングシステムおよびサービスパックによるデバイスのカウント

3 [オペレーティングシステム] レポートをクリックしてレポートを生成します。

レポートの下部にあるオプションを使用して、生成されたレポートを Microsoft Excel* スプレッドシート、CSV (カンマ区切り値) ファイル、PDF ファイル、または PDF Graph ファイルとして保存できます。

4.6.4 詳細の参照場所

インベントリの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management Asset Inventory リファレンス』を参照してください。

4.7 ソフトウェア使用状況の監視

デバイスについてインベントリを行った後で、デバイスのアプリケーションの使用状況を表示するレポートを実行できます。ZENworks Asset Management には、製品別、ユーザ別、デバイス別のアプリケーション使用状況に関する標準レポートが組み込まれています。また、より詳細な、より重点を絞った情報を提供するようにレポートをカスタマイズすることもできます。たとえば、Asset Management には過去 90 日間使用されていないアプリケーションを表示する、事前定義済みのカスタムレポートも組み込まれています。

特定のアプリケーションの使用状況を表示するレポートを実行するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ソフトウェア使用状況] タブをクリックします。



- 2 [ソフトウェア使用状況標準レポート] パネルで、[アプリケーション使用状況] をクリックすると、アプリケーション使用状況レポートのリストが表示されます。

[ソフトウェア使用状況レポート](#) > [アプリケーション使用状況](#)

名前	説明	グループ化基準
製品ごとのアプリケーション使用状況 (全体)	製品によって分類された、ローカルおよび使用されているアプリケーションの使用の合計	<input checked="" type="radio"/> ソーン
ユーザーごとのアプリケーション使用状況 (全体)	ユーザーによって分類された、ローカルおよび使用されているアプリケーションの使用の合計	<input type="radio"/> フォルダ
デバイスごとのアプリケーション使用状況 (全体)	デバイスによって分類された、ローカルおよび使用されているアプリケーションの使用の合計	<input type="radio"/> グループ
製品ごとのアプリケーション使用状況 (ローカル)	製品によって分類されたローカルアプリケーションの使用	<input type="radio"/> 人口統計
ユーザーごとのアプリケーション使用状況 (ローカル)	ユーザーによって分類されたローカルアプリケーションの使用	
デバイスごとのローカルアプリケーションの使用量	デバイスによって分類されたローカルアプリケーションの使用	
製品ごとのサービスアプリケーション使用状況	製品によって分類された、使用されているアプリケーションの使用	
サーバーごとのサービスアプリケーション使用状況	サーバーによって分類された、使用されているアプリケーションの使用	
ユーザーごとのサービスアプリケーション使用状況	ユーザーによって分類された、使用されているアプリケーションの使用	
デバイスごとのサービスアプリケーション使用状況	デバイスによって分類された、使用されているアプリケーションの使用	
使用状況の収集の履歴	使用データコレクションの履歴	

- 3 [レポート] パネルで、[製品別ローカルアプリケーション使用状況] をクリックします。

製品ごとのアプリケーション使用状況 (ローカル)

実行日: 09/05/12

製品	インストールされているソフトウェア製造元	デバイス
製造元	インストール	
Apache Software Foundation		1
Full Circle Software		4
Irfan Skiljan		1
Microsoft		74
Mozilla.org		4
Novell		55
Sun		3
Sun Microsystems		17
Sybase		1
TechSmith		2

[Excel](#) [CSV](#) [PDF](#) [グラフ](#)

レポートは、デバイスにインストールされている、ソフトウェア制作会社別にグループ化されたすべての製品を表示します。

- 4 確認対象の製品の制作会社を検索し、[インストール] カラムの数をクリックすると、インストールされている製品が表示されます。

得られたレポートには、各製品の現在のインストール数、インストール数のうち使用されているものの数、最後に使用された日時などの使用状況情報が示されます。

- 5 レポートの対象期間を変更する場合、または表示された製品の一覧(全製品、使用している製品、または使用していない製品)を変更する場合は、レポートの最下部にある [期間の変更] / [フィルタ] をクリックします。

ほかにも、標準および事前定義済みのカスタムレポートなど、使用できるものがたくさんあります。アプリケーション使用レポートの詳細は、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』を参照してください『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』の「レポート」を参照してください。

4.8 ライセンスコンプライアンスの監視

ZENworks Asset Management では、購入したソフトウェアライセンス数をインベントリスキャン中に検出された実際のソフトウェアインストール数と比較して、組織がソフトウェア使用許諾に従っているかどうかを監視できます。

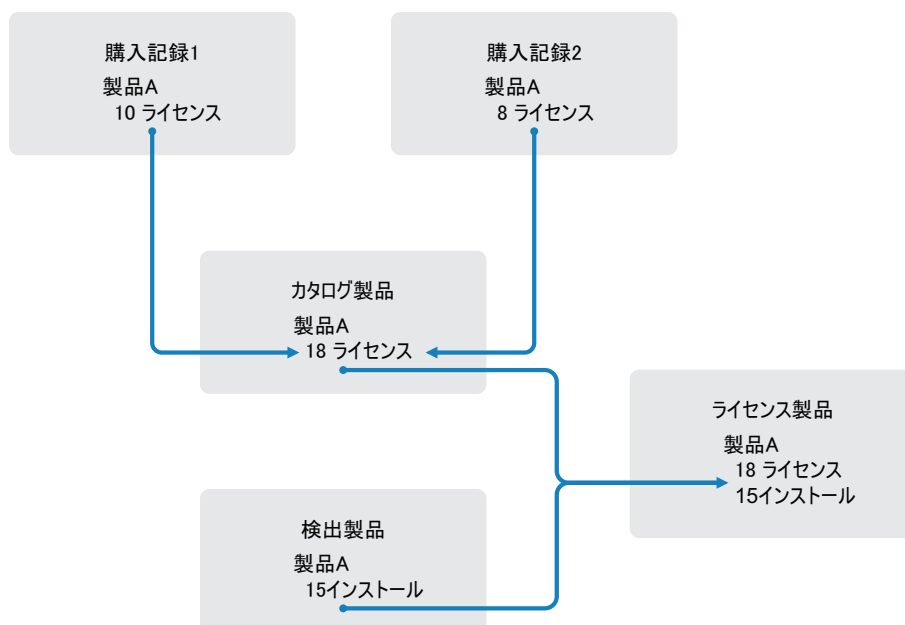
Asset Management ライセンスコンプライアンスは、強力で柔軟なツールです。この結果、ライセンスコンプライアンスを設定する際に複数のアプローチと方法を使用できます。次のセクションでは、ライセンスコンプライアンスを監視する製品をすばやく設定するため、最小限の説明で基本的な手順を説明します。この基本シナリオを把握したら、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』の「ライセンスコンプライアンス」を参照して、詳細な情報と手順を理解してください。

- ◆ 73 ページのセクション 4.8.1 「ライセンスコンプライアンスコンポーネント」
- ◆ 74 ページのセクション 4.8.2 「インストールされた製品の検出」
- ◆ 75 ページのセクション 4.8.3 「カタログ製品と購買記録の作成」
- ◆ 77 ページのセクション 4.8.4 「ライセンス製品の作成」
- ◆ 79 ページのセクション 4.8.5 「コンプライアンスデータの表示」
- ◆ 80 ページのセクション 4.8.6 「詳細の参照場所」

4.8.1 ライセンスコンプライアンスコンポーネント

コンプライアンス監視の実行を開始する前に、次の例とそれに続くテキストで説明されているように、関連するコンポーネントやその機能について把握する必要があります。

図 4-1 ライセンスコンプライアンスコンポーネント



- ◆ 管理ゾーン内のデバイスをスキャンして、インストールされたソフトウェア製品のリストを収集します。これらは、**検出製品**と呼びます。上記の例では、インベントリスキャンで、**ProductA** が 15 個のデバイスにインストールされていることがわかります。
- ◆ 組織で購入したソフトウェア製品を示す**カタログ製品**を作成します。一般に、各カタログ製品は特定の製作会社の部品番号に対応します。上記の例では、**ProductA** だけがカタログ製品です。ただし、**ProductA**、**ProductA Upgrade**、**ProductB** などのカタログ製品がある場合もあります。
- ◆ ソフトウェア製品の購入注文または請求書を示す**購入記録**を作成します。ライセンス購入記録の各細目には、カタログ製品と購入数量が表示されます。カタログ製品が複数の購入記録にリストされている場合、そのカタログ製品の総ライセンス数は両方の購入記録の購入数量に等しいです。上記の例において、1 つの購入記録には **ProductA** の 10 個のライセンスがあり、もう 1 つの購入記録には 8 個のライセンスがあります。**ProductA** の総ライセンス数は 18 です。
- ◆ **ライセンス製品**を作成し、検出された対応製品とカタログ製品をライセンス製品に関連付けます。これを行うことで、製品のライセンス数やインストール数が示された単一のライセンス製品を確認できます。その結果、製品の使用状況が製品ライセンス契約に準拠しているかどうかを示されます。上記の例で、**ProductA** のライセンス数は 18 個で、15 個のデバイスにインストールされているので、**ProductA** はライセンス契約にコンプライアンスしています。

4.8.2 インストールされた製品の検出

管理ゾーンのデバイスをスキャンしてインストールされている製品 (**検出製品**と呼ばれる) についての情報を収集していない場合は、[68 ページのセクション 4.6 「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」](#) の手順を完了してください。

製品を検出した後、監視するコンプライアンスを選択します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[検出された製品] をクリックし、[検出された製品] リストを表示します。

検出された製品						
アクション						
<input type="checkbox"/>	名前	除外	ライセンスされた製品	インストール済み数量	アクティブな使用量	標準カテゴリ
<input type="checkbox"/>	Microsoft Office 2000 Premium 2000 (Windows)		Office 2000 Premium	3	1	Standard Desktop
<input type="checkbox"/>	Microsoft Office 2000 Professional 2000 (Windows)		Office 2000 Professional	1	1	Standard Desktop
<input type="checkbox"/>	Microsoft Office 2004 11.0 (Mac)		Office 2004	5	0	
<input type="checkbox"/>	Microsoft Office 97 Professional 97 (Windows)		Office 97 Professional	11	4	Standard Desktop
<input type="checkbox"/>	Microsoft Office XP Professional 10.0 (Windows)		Office XP Professional	21	17	Standard Desktop

- 3 リストを参照して、使用する検出製品を選択します。

製品は、[インストール済み数量] 列に少なくとも 1 つのインストールが表示されている必要があります。可能な場合、購入注文または請求書を使用できる製品を選択します。これによって、実際の情報を使用したシナリオが完了します。この方法を採用しない場合は、実際の購入ごとに購入情報を作成できます。後で使用できるように、選択した製品を記録しておいてください。

- 4 次のセクションの 75 ページの「カタログ製品と購買記録の作成」に進みます。

4.8.3 カタログ製品と購買記録の作成

検出製品から、製品のインストール情報が得られます。製品購入についての情報を取得するには、カタログ製品と購買記録を作成します。

カタログ製品はソフトウェア製品を示します。購買記録からカタログ製品に購入した製品ライセンス数が入力されます。

次の手順では、74 ページのセクション 4.8.2 「インストールされた製品の検出」 で選択した検出製品に対してカタログ製品と購買記録を作成する方法を説明します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 カタログ製品を作成する：
 - 2a [ライセンス管理] パネルで、[カタログ製品] をクリックします。

カタログ製品						
新規 - 移動 - 削除 - アクション						
<input type="checkbox"/>	名前	パッケージあたりのライセンス	製造者/製品番号	販売者SKU	購入数量	ライセンスされた製品
<input type="checkbox"/>	4D TECHNOLOGIES INC CD DUPE MS OFFICE 2000 STANDARD 32 BIT_MIN (CD)(NR) 2000 (FF_Media Duplication) (1)	1	C49567	C49567	1	
<input type="checkbox"/>	ACME Jumble 2 (Full License) (1)	1			2	Jumble
<input type="checkbox"/>	ACME Turbo (Version Upgrade) (1)	1				
<input type="checkbox"/>	ADOBE SYSTEM INC ADOBE ACROBAT CAPTURE V3.0 PERSONAL ED WNT (CD) 3 (Shrinkwrap Product) (1)	1	22101156	A59587	1	
<input type="checkbox"/>	ADOBE SYSTEM INC ADOBE ACROBAT V5.0 MP (CD) 5 (Shrinkwrap Product) (1)	1	22001438	A68210	2	
<input type="checkbox"/>	ADOBE SYSTEM INC ADOBE ACROBAT V5.0 MP UPG (CD) 5 (Shrinkwrap Product) (1)	1	22001440	A68290	3	
<input type="checkbox"/>	ADOBE SYSTEM INC ADOBE DESIGN COLLECTION V4.0 MP (CD) 4 (Shrinkwrap Product) (1)	1	27590080	A69412	1	
<input type="checkbox"/>	ADOBE SYSTEM INC ADOBE GOLIVE V6.0 MP (CD) 6 (Shrinkwrap Product) (1)	1	23200324	A84261	2	
<input type="checkbox"/>	ADOBE SYSTEM INC ADOBE PAGEMAKER V7.0 MP (CD)(EU) 7 (Shrinkwrap Product) (1)	1	27530341	A69856	1	
<input type="checkbox"/>	ADOBE SYSTEM INC ADOBE PAGEMAKER V7.0.2 MP UPG (CD)(EU) 7 (Shrinkwrap Product) (1)	1	27530342	A104342	1	

2b 「**新規**」 > 「**カタログ製品**」の順にクリックして、新規カタログ製品の作成ウィザードを起動します。

2c 次のフィールドに入力します。

製造元：ソフトウェア制作会社をリストから選択します。リストに正しい製造元がない場合は、製造元名を入力します（例、Novell、Symantec、Microsoft など）。

製品名：製品の名前を入力します。製品は、購入したソフトウェア製品パッケージ (SKU) を示す必要があります。たとえば、購入パッケージは「Product A Single License」または「Product A 10-Pack」となります。カタログ製品を作成している製品の請求記録がある場合、請求書の製品名を使用します。

パッケージ別ライセンス：製品パッケージに含まれるライセンス数を指定します。

製品タイプ - **注**：これらのフィールドは、オプションです。これらを使用して製品をさらに絞り込むことができます。

除外：このチェックボックスは選択しません。

2d 「**次へ**」をクリックして「**概要**」ページを表示してから、「**完了**」をクリックして、製品を「**カタログ製品**」リストに追加します。

2e 「**ライセンス管理**」（ページの最上部にあるブレードクランプスにある）をクリックし、「**ライセンス管理**」ページに戻ります。

3 購買記録を作成する：

3a 「**ライセンス管理**」パネルで、「**購入記録**」をクリックします。

[ライセンス管理](#) > [購買記録](#)

購買記録		インポートステータス	
新規 ▾ 移動... 削除 アクション ▾			
PO番号	注文日	販売者	
使用できる項目がありません。			

3b 「**新規**」 > 「**購入記録**」の順にクリックし、新規購入記録の作成ウィザードを起動します。

3c 次のフィールドを入力します。

PO 番号：ソフトウェア製品購入と関連付けられた購入注文番号または請求書番号を指定します。この製品に対する発注書または請求書がない場合は、任意の番号を使用します。


注文日付：ソフトウェアの購入日付を選択します。

受信者 - 販売者：これらのフィールドは、オプションです。これらを使用して購入記録を詳しく確認することができます。

3d 「**次へ**」をクリックして「**概要**」ページを表示します。

3e 「**追加のプロパティの定義**」ボックスを選択してから、「**完了**」をクリックして、購入記録を作成し、その「**購入詳細**」ページを表示します。

3f 「**追加**」をクリックして、「**購入詳細の追加**」ダイアログボックスを表示してから、次のフィールドを入力します。

製品名：をクリックして、**ステップ 2**で作成したカタログ製品を参照し、選択します。

数量：購入製品の数量を指定します。たとえば、選択したカタログ製品が ProductA 10 パックで、購入注文が ProductA 10 パック 5 個の場合は、5 を指定します。

ユニット MSRP - 増値：これらのフィールドは、必須です。メーカー希望小売価格 (MSRP)、支払った価格 (ユニット単位)、および増値を指定します。[総額] フィールドを空白にすると、ウィザードから購入数量と単価を掛け合わせた数値が入力されます。

請求書番号 - コメント：これらのフィールドは、オプションです。これらを使用して購入をさらに特定することができます。

3g [OK] をクリックします。

4 次のセクションの「[ライセンス製品の作成](#)」に進みます。

Asset Management では、購入情報を電子ファイルからインポートすることもできます。処理中に、購買記録のほか、購買記録に含まれるソフトウェア製品のカタログ製品も作成されます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』の「[ライセンスコンプライアンス](#)」を参照してください。

4.8.4 ライセンス製品の作成

ソフトウェア製品のコンプライアンス設定の最終手順では、ライセンス製品を作成し、検出された製品とカタログ製品とに関連付けます。これによって、ライセンスコンプライアンスステータスの判定に必要なインストールとライセンスの情報がライセンス製品に指定されます。

次の手順では、自動調整ウィザードでライセンス製品を作成し、検出された製品とカタログ製品とに関連付ける方法を説明します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[ライセンスされた製品] をクリックします。


[ライセンス管理](#) > [ライセンスされた製品](#)

コンプライアンスの更新開始: 2009/05/11 22:00:01
開始者: (毎日更新)

終了: 2009/05/11 22:00:07
3 個のライセンスされた製品

ライセンスされた製品						
新規 ▾ 移動... 削除 アクション ▾						
<input type="checkbox"/>	名前 ▲	ステータス	検出された製品	カタログ製品	ライセンス数	割り当てられた数
使用できる項目がありません。						

- 3 [ライセンスされた製品] パネルで、[アクション] > [自動調整済み: ライセンス製品の作成] の順にクリックして、自動調整ウィザードを起動します。次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
検出された製品フィルタ	<p>自動調整ウィザードは、既存の検出製品からライセンス製品を作成します。検出製品を検索するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [以下に指定した製品] オプションをクリックします。 2. [選択] リストで、検出製品の製造元を選択します。 3. [製品] フィールドに、検出製品の名前を入力します。
作成するライセンス製品の選択	<p>[検出された製品フィルタ] で指定した情報に基づいて、このページには検出された製品と、それに対して作成されるライセンス製品が表示されます。</p> <p>ウィザードでは、[製造元] フィールドと [製品] フィールドを比較して、カタログ製品と検出製品の照合を試みます。作成したカタログ製品と検出した製品をウィザードで照合できた場合、カタログ製品もリストされます。ライセンス製品と関連付けるカタログ製品を選択します。</p> <p>ウィザードでカタログ製品と検出製品を照合できなかった場合、ウィザードを終了してからカタログ製品を手動で割り当てる必要があります。</p>
宛先フォルダ	<p>新しいライセンス製品を配置するフォルダを選択します。</p> <p>フィールドのデフォルト値は現在のフォルダです (自動調整ウィザードを起動したフォルダ)。別のフォルダを指定するには、 をクリックしてフォルダを参照して選択します。既存のフォルダを指定します。選択ダイアログを使用して新規フォルダを作成することはできません。</p>
ライセンスエンタイトルメント	<p>各ライセンス製品には、少なくとも1つのエンタイトルメントとライセンスモデルが必要です。</p> <p>エンタイトルメントは通常、使用許諾契約です。多くの場合、1つのライセンス製品にはエンタイトルメントが1つしかありません。ただし、複数のエンタイトルメントを許可することで、複数の使用許諾契約があるライセンス製品のコンプライアンスを判定できます。たとえば、同一製品で、フルライセンス契約とアップグレードライセンス契約を指定できます。同一製品に対して2つのライセンス製品を作成するのではなく、2種類のエンタイトルメントを持つ1つのライセンス製品を作成できます。</p> <p>ライセンスモデルは、ライセンスの計上方法を指定します。ライセンスは、インストール、ユーザ、またはデバイス単位で計上できます。</p> <p>このシナリオでは、説明として [インストールごと] を指定し、ライセンスモデルとして [インストールごと] を選択します。これによって、製品のインストールごとにライセンスが使用されます。</p>
自動調整作成サマリ	<p>データを確認します。</p>

- 4 確認していない場合は、[完了] をクリックしてライセンス製品を作成し、[ライセンスされた製品] リストに追加します。
- 5 自動調整ウィザードでカタログ製品をライセンス製品と関連付けられない場合は、次の手順に従います。
 - 5a ライセンス製品をクリックします。
 - 5b [ライセンスエンタイトルメント] タブをクリックします。
 - 5c [エンタイトルメント] パネルで、エンタイトルメントをクリックします。
 - 5d [所有権の証明] タブをクリックします。

- 5e [カタログ製品] パネルで、[追加] をクリックします。
- 5f カatalog製品を選択し、[OK] をクリックして [カタログ製品] パネルに追加します。
[カタログ製品] パネルに、カタログ製品の購入数量が表示されます。これは、購入したカタログ製品の単位数です(購買記録に従う)。ライセンス数量も表示され、これは購入した単位に含まれるライセンスの合計数です。
- 6 コンプライアンスの監視に関する情報については、次のセクション、「[コンプライアンスデータの表示](#)」に進みます。

4.8.5 コンプライアンスデータの表示

ライセンス製品のコンプライアンスステータスの確認に使用できるビューは2つあります。[ライセンスされた製品] ページを表示して、すべての製品のコンプライアンスステータスの概要を把握したり、ソフトウェアコンプライアンスレポートを生成してさらに詳細な情報を確認したりすることができます。

- ◆ 79 ページの「[コンプライアンスステータスの概要を確認する](#)」
- ◆ 80 ページの「[ソフトウェアコンプライアンスレポートを生成する](#)」

コンプライアンスステータスの概要を確認する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[ライセンスされた製品] をクリックし、[ライセンスされた製品] ページを表示します。

[ライセンス管理](#) > [ライセンスされた製品](#)

コンプライアンスの更新開始: 2009/05/11 22:00:01
開始者: (毎日更新)

表示: 2009/05/11 22:00:07
1 個のライセンスされた製品

ライセンスされた製品						
新規 ▾ 移動... 削除 アクション ▾						
<input type="checkbox"/> 名前	ステータス	検出された製品	カタログ製品	ライセンス数量	割り当てられた数量	
<input type="checkbox"/> Microsoft Office Professional 2003 2003		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5	0	
<input type="checkbox"/> Microsoft Windows Server 2003 5.2		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	0	
<input type="checkbox"/> Microsoft Windows XP Professional 5.1		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	0	

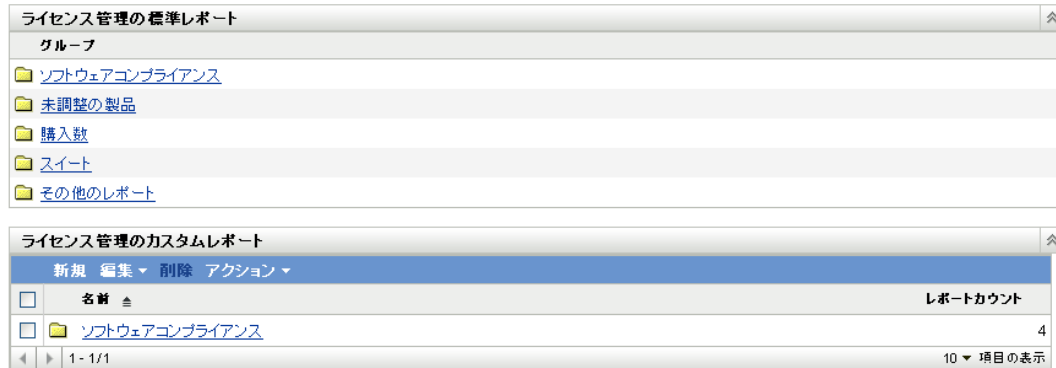
1 - 3/3 25 ▾ 項目の表示

[ライセンスされた製品] リストには、すべてのライセンス製品と現在のコンプライアンスステータスが示されます。

- ◆ ソフトウェア製品は正しくライセンスされています。購入ライセンスの数はインストール数と同じです。
- ◆ ソフトウェア製品はライセンス切れです。購入ライセンス数はインストール済みの数よりも多いです。
- ◆ ソフトウェア製品はライセンスがあります。購入ライセンス数はインストール済みの数よりも少ないです。

ソフトウェアコンプライアンスレポートを生成する

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックし、次に [ライセンス管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] パネルで、[ライセンス管理レポート] をクリックします。



- 3 [ライセンス管理の標準レポート] パネルで、[ソフトウェアコンプライアンス] をクリックします。
- 4 [レポート] パネルで、[コンプライアンスレポート] をクリックします。

The screenshot shows the 'ソフトウェアコンプライアンスレポート' (Software Compliance Report) interface. On the left, there are filters for 'コンプライアンスステータス' (Compliance Status) and 'フィルタ基準' (Filter Criteria). The main area displays a table with the following data:

製造元	製品	バー	ステー	使用デー	ライセン	インスト	使用され	ライセンス	ライセンス	アクティ	未使用の	最近の
		ジョン	タス	ソース	ス数量	ル済み数	ラ	以上数量	以下数量	ブな	イン	再計算
Firefox			インベ	ントリ	0	2	2	0	2	0	2	

Additional information shown includes: 実行日: 09/05/13, レポート期間: 直前3ヶ月, 表示: すべて, 1 ライセンス記録, 未調整のカatalog製品: 233, 未調整の検出された製品: 26, and コンプライアンスが計算された日時: 09/05/13 8:02:16.

ライセンス別のコンプライアンスデータが示されているレポートが表示されます。データはコンプライアンスステータス、製造元と値、または人口統計の条件別にフィルタできます。特定のライセンス製品のコンプライアンスの詳細を確認するには、[ライセンス数量] を展開します。その他のレポートの情報については、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』を参照してください。

4.8.6 詳細の参照場所

前のセクションで説明したシナリオでは、ZENworks Asset Management で使用できるライセンスコンプライアンス機能のほんの一部を紹介しました。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』の「ライセンスコンプライアンス」を参照してください。

4.9 ライセンスの割り当て

ZENworks Asset Management では、組織内でライセンスを割り当てて、ライセンスの所有権と配布を追跡できます。ライセンスはデバイス単位または人口統計単位 (サイト、部署、コストセンタ) に割り当てられます。

デバイス割り当てでは、ライセンスを特定のデバイスに割り当てます。そのデバイスには、製品がインストールされていても、インストールされていなくても構いません。たとえば、製品 A の 10 ライセンスを購入したとします。これらのライセンスは、デバイスにインストールする前でも、ターゲットデバイスに割り当てることができます。

統計割り当てでは、1 つまたは複数のライセンスをサイト、部署、またはコストセンターに割り当てることです。統計を割り当てられ、製品がインストールされたデバイスは、その割り当てに関連付けられたインストールとして表示されます。たとえば、製品 A の 15 ライセンスを購入し、それを部署 Q に割り当てたとします。部署 Q に割り当てられているデバイスは 20 台です。20 台のデバイスうち、12 台のデバイスで製品 A がインストールされました。このため、Department Q の割り当てとして、15 本のライセンスが割り当てられ、12 本がインストールされています。

次の手順では、ライセンスをデバイスに割り当てる方法を説明します。ライセンスを人口統計に割り当てる方法については、『ZENworks 10 Asset Management リファレンス』の「[ライセンスの割り当て](#)」を参照してください。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[アセット管理] タブをクリックします。
- 2 [ライセンス管理] ページで、[ライセンスされた製品] をクリックします。

[ライセンス管理](#) > [ライセンスされた製品](#)

コンプライアンスの更新開始: 2009/05/11 22:00:01
開始者: (毎日更新)

表1: 2009/05/11 22:00:07
1 個のライセンスされた製品

ライセンスされた製品						
新規 ▾ 移動... 削除 アクション ▾						
<input type="checkbox"/>	名前	ステータス	検出された製品	カタログ製品	ライセンス数	割り当てられた数
<input type="checkbox"/>	Microsoft Office Professional 2003 2003		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5	0
<input type="checkbox"/>	Microsoft Windows Server 2003 5.2		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	0
<input type="checkbox"/>	Microsoft Windows XP Professional 5.1		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1	0

1 - 3/3 25 ▾ 項目の表示

- 3 [ライセンスされた製品] リストで、ライセンスを割り当てるライセンス製品をクリックします。
- 4 [ライセンス割り当て] タブをクリックします。

全般 ライセンスの権限 コンプライアンスステータス **ライセンス割り当て**

統計割り当て

追加 削除

サイト	デバイス数	割り当てられた数量	インストール済み数量	相違
<input type="checkbox"/> Waltham	9	<input type="text" value="2"/>	2	0
合計:	9	2	2	

1-1/1 5▼ 項目の表示

デバイス割り当て

削除 追加

マシ名	ログイン名	IPアドレス	サイト	部署	コストセンター	インストール済み数量	重複した割り当て
<input type="checkbox"/> ARHEATH02076	aeath	164.99.114.108	Bangalore	Engineering	1001	1	
<input type="checkbox"/> DAMAVILL03032	Damaville	192.168.2.134	Provo	North American Sales	1004	1	
<input type="checkbox"/> DDJOHNS002096	ddjohnson	164.99.11.33	Bangalore	Engineering	1001	1	
<input type="checkbox"/> KJTOMBS03018	SLDUSCHEID	192.168.2.184	Waltham	Marketing Services Group	1007	1	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> MULIBUDA02079	SYSTEM	164.99.114.19	Lebanon	Quality Assurance	1003	1	

1-5/5 5▼ 項目の表示

割り当てられていないインストール数: 1

- 5 (オプション) 製品はインストールされていますが、割り当てられたライセンスのないデバイスを表示するには、[デバイス割り当て] パネルで、[割り当てられていないインストール数] の数字をクリックします。
- 6 ライセンスの割り当て先デバイスに製品がインストールされている場合は、[追加] > [Devices with Product Installed(製品がインストールされているデバイス)] の順にクリックします。
または
ライセンスの割り当て先デバイスに製品がインストールされていない場合は、[追加] > [Any Devices(任意のデバイス)] の順にクリックします。
[デバイスの検索] ダイアログボックスが表示されます。
- 7 [デバイスタイプ] フィールドで、[管理対象デバイス]、[インベントリ済みデバイス]、[Managed or Inventoried Devices(管理対象またはインベントリ済みデバイス)]、[ZAM マイグレートデバイス]、[すべて] のいずれを検索するか選択します。
デバイスタイプが不明な場合は、[すべて] を選択します。
- 8 検索を制限するには、フィルタを使用して、検索条件を作成します。
フィルタを作成しない場合は、すべてのデバイス(または製品がインストールされているすべてのデバイス)が、最大表示数まで表示されます。
- 9 検索で表示するデバイスの最大数を指定します。
- 10 検索結果のダイアログボックスに表示するカラムを選択します。複数のフィールドを選択する場合は、<Ctrl> キーを使用します。
- 11 [検索] をクリックすると、検索結果が一覧表示された [デバイスの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- 12 ライセンスを割り当てたいデバイスを選択して、[OK] をクリックします。

割り当てに関する次の情報が表示されます。

- **マシン名、ログイン名、IP アドレス**: デバイスの標準情報 (デバイスのインベントリ取得時にログインしていたユーザのログイン名など)。
- **サイト、部署、コストセンター**: デバイスの統計データ 1 つまたは複数のフィールドが空の場合、その情報はデバイスのインベントリデータに含まれていません。
- **インストール済み数量**: デバイス上のライセンス製品のインストール数。通常は、1 になります。
- **重複した割り当て**: デバイスのインストールが統計割り当てにも含まれている場合は、チェックマークが付きます。
- **割り当てられていないインストール数**: 統計割り当てまたはデバイス割り当てによりライセンスを割り当てられていないインストールの数を表示します。数値をクリックすると、インストールのリストが表示されます。

4.10 デバイスのリタイア

サーバまたはワークステーションデバイスをリタイアすると、選択したデバイスは ZENworks ゾーンから削除されます。デバイスのリタイアはデバイスの削除とは異なり、デバイスをリタイアしても、GUID は保持されます (これとは反対に、デバイスを削除すると、GUID も削除されます)。その結果、すべてのインベントリ情報は保持され、査定できますが、すべてのポリシーおよびバンドルの割り当ては削除されます。後でデバイスのリタイアを解除する場合、割り当ては復元されます。管理対象デバイスとインベントリされたデバイスの両方をリタイアできます。

デバイスをリタイアするには、デバイス変更の権限を持っている必要があります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「[管理者権限の管理](#)」を参照してください

デバイスをリタイアするには次のようにします。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、管理対象デバイスをリタイアする場合は、[デバイス] > [管理対象] をクリックします。

または

インベントリデバイスをリタイアする場合は、[デバイス] > [インベントリ済み] をクリックします。

- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用の ZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。

デバイス						
新規 ◯ 編集 ◯ 削除 ◯ アクション ◯ クイックタスク ◯						
<input type="checkbox"/>	ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡	使用停止
<input type="checkbox"/>		Windows 2000 Servers	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>		Windows Server 2003	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>		Windows Server 2008	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>		rawhide	サーバ	win2003r2-ee-sp2-x86	17:18	

1 - 4/4 25 ▼ 項目の表示


- 3 サーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします (デバイスは複数選択できます)。

ZENworks プライマリサーバをリタイアするには、まずそれを降格させる必要があります。詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス](#)』の「[プライマリサーバの親子関係の変更](#)」を参照してください。

- 4 [アクション] > [デバイスのリタイア] の順にクリックします。

または

[アクション] > [リタイア解除] の順にクリックします。

 アイコンがリタイアしたデバイスの [サーバ] または [ワークステーション] リストの [状態] カラムに表示されます。時刻の上にマウスを乗せると、詳細な日付と時刻が表示されます。

ZENworks Adaptive Agent の展開

5

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management は、管理するデバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開するために使用できるさまざまな方法を提供します。このセクションでは、最も一般的な 2 つの方法、Web インストールおよび ZENworks コントロールセンター展開タスクについて説明します。他の方法については、『[ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス](#)』を参照してください。

展開タスクを使用して Adaptive Agent をデバイスにインストールするよう計画している場合は、最初にネットワーク検出またはファイルインポートのいずれかを使用して目的のデバイスをユーザの管理ゾーンに追加する必要があります。次にリストされている最初の 2 つのセクションは、ネットワークディスカバリおよびファイルインポートの使用方を説明しています。残りのセクションでは ZENworks Adaptive Agent のインストール手順と使用手順について説明します。

- ◆ [85 ページのセクション 5.1 「ネットワークデバイスの検出」](#)
- ◆ [86 ページのセクション 5.2 「デバイスのインポート」](#)
- ◆ [87 ページのセクション 5.3 「ZENworks Adaptive Agent のインストール」](#)
- ◆ [95 ページのセクション 5.4 「ZENworks Adaptive Agent の使用」](#)

注：デバイスが ZENworks Adaptive Agent のインストール要件を満たさない場合は (『[ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド](#)』の「[管理対象デバイス要件](#)」参照)、デバイスにインベントリのみモジュールをインストールして、デバイスのインベントリ作成をサポートすることができます。詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス](#)』を参照してください。

5.1 ネットワークデバイスの検出

ZENworks サーバで ZENworks Adaptive Agent を自動的にデバイスに展開する場合は、まず最初に管理ゾーンにデバイスを追加する必要があります。これを行うには、次の 2 つのオプションがあります: 1) ZENworks 検出技術を使用してネットワーク上のデバイスを検出して ZENworks コントロールセンターに表示する。または 2) カンマ区切り値 (CSV) ファイルからインポートする。

このセクションでは検出技術の使用法について説明します。CSV ファイルからデバイスをインポートする方法の詳細については、[86 ページのセクション 5.2 「デバイスのインポート」](#) を参照してください。

実行できる検出には2つのタイプがあります。

- ◆ **IP 検出**: IP アドレス範囲を指定することができます。デフォルトでは、7つのディスカバリテクノロジー(WMI、WinAPI、MAC Address、ZENworks、SNMP、SSH、NMAP)を使用します。それぞれの検出技術からは、検出済みデバイスに関するさまざまなレベルの情報(OSバージョン、DNS名など)が返されます。
- ◆ **LDAP 検出**: LDAP ディレクトリコンテキストを指定してすべてのデバイスタイプのオブジェクト(ワークステーション、サーバなど)を検索します。検出されるデバイスオブジェクトは、デバイスのOSバージョンおよびDNS名を判別するために周知の属性(dnsHostName、OperatingSystem、wmNameDNS、wmNameOSなど)に対してクエリが行われます。

いずれかの検出を実行するには、検出タスクを作成する必要があります。検出タスクでは、検索するソース(IPアドレス範囲またはLDAPディレクトリ)の識別、検出されたデバイスからの情報の取得に必要な資格情報の指定、検出を開始する日時のスケジュール、および検出を実行するZENworksサーバの選択を行うことができます。検出タスクの作成方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアランス』を参照してください。

5.2 デバイスのインポート

ZENworks サーバでZENworks Adaptive Agentを自動的にデバイスに展開する場合は、まず初めに管理ゾーン内でデバイスを識別する必要があります。これを行うには、2つのオプションがあります。1)カンマ区切り値(CSV)ファイルからインポート、または2)ZENworks 検出技術を使用してネットワーク上のデバイスを検索してZENworks コントロールセンターに表示することができます。

このセクションでは、CSVファイルからデバイスをインポートする方法を説明します。検出技術の使用の詳細については、85ページのセクション5.1「ネットワークデバイスの検出」を参照してください。

CSVファイルから情報をインポートする場合、CSVフィールドをZENworks データベースフィールドにマップします。少なくとも、CSVファイルには、各デバイスのDNS名またはIPアドレスが含まれている必要があります。

CSVファイルからデバイスをインポートするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。



- 2 左ナビゲーションパネルの [展開アクティビティ] リストで、[展開可能なデバイスのインポート] をクリックして、デバイスを CSV ファイルからインポートウィザードを起動します。

展開 > デバイスをCSVファイルからインポート

デバイスからCSVファイルからインポート

ステップ 1: インポートするファイルを選択

インポートするデバイスについてのアカウント情報が含まれている、コンマ区切りの値のファイルを選択します。

CSVファイル

参照...

- 3 次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
[インポートするファイルを選択] ページ	インポートするデバイスを含む CSV ファイルを参照して選択します。少なくとも、CSV ファイルには、各デバイスの DNS 名または IP アドレスが含まれている必要があります。
[インポートを設定]	<p>CSV ファイルのカラムを ZENworks データベースのデバイスフィールドにマップします。少なくとも、CSV ファイルの DSN 名または IP アドレスを ZENworks データベースの [DNS 名フィールド] または [IP アドレス] フィールドにマッピングする必要があります。</p> <p>情報マッピングを作成するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none">[追加] をクリックして、[インポートカラムの指定] ダイアログボックスを表示します。次のフィールドに入力します。 フィールド: CSV ファイルの列にマッピングするデバイスフィールドを選択します。 列: 選択したフィールドにマッピングする列の番号を選択します。[OK] をクリックして、情報マッピングを作成して、リストに追加します。フィールドが正しいカラムにマッピングされているか確認するには、[サンプルの表示] をクリックします。上記の手順を繰り返して、追加の情報マッピングを作成および検証します。

ウィザードが終了すると、[展開可能なデバイス] パネルのリストにデバイスが追加されます。

5.3 ZENworks Adaptive Agent のインストール

次のセクションでは、Web インストールまたは ZENworks コントロールセンター展開タスクを使用して ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールする手順について説明します。

- ◆ 88 ページのセクション 5.3.1 「手動インストール」

- ◆ 89 ページのセクション 5.3.2 「エージェントの Linux デバイスへの展開」
- ◆ 90 ページのセクション 5.3.3 「ZENworks コントロールセンター展開タスク」

5.3.1 手動インストール

- 1 デバイスが必要な要件を満たしていることを確認します (『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「管理対象デバイス要件」参照)。
- 2 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。

`https://server/zenworks-setup`

`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。



Web ブラウザに Adaptive Agent の展開パッケージの一覧が表示されます。各アーキテクチャ (32 ビットおよび 64 ビット) 用に、2 種類のパッケージがあります。

ネットワーク: ネットワークパッケージは、プレエージェントのみをダウンロードし、目的のデバイスにインストールします。続いて、プレエージェントが ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent をダウンロードしてインストールします。

スタンドアロン: スタンドアロンパッケージでは、プレエージェントと Adaptive Agent を目的のデバイスにダウンロードし、続いてプレエージェントがローカルデバイスから Adaptive Agent をインストールします。スタンドアロンパッケージは、ZENworks Adaptive Agent を現在ネットワークから接続解除されているデバイスにインストールする必要がある場合に便利です。パッケージをリムーバブルメディア (CD、USB フラッシュドライブなど) に保存し、スタンドアロンデバイスでメディアからパッケージを実行することができます。Adaptive Agent はデバイスにインストールされますが、デバイスがネットワークに接続されるまで登録および管理は行われません。

- 3 使用する展開パッケージの名前をクリックし、パッケージをデバイスのローカルドライブに保存するか、ZENworks サーバから実行します。
- 4 パッケージをダウンロードしたら、デバイスでパッケージを起動します。
パッケージをコマンドラインから起動する際に使用できるオプションについては、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「手動でのエージェントの展開」を参照してください。
- 5 インストールの完了時に、再起動するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。次のいずれかを行います。
 - ◆ 何もしない。この場合、5 分後に自動的に再起動します。

- [キャンセル] をクリックする。後で再起動する必要があります。
- [OK] をクリックすると、すぐに再起動します。

デバイスは再起動するとき、管理ゾーンに登録され、ZENworks アイコンが通知領域 (システムトレイ) に配置されます。

ZENworks コントロールセンターでは、デバイスは [デバイス] ページの \Servers フォルダ構造または \Workstation フォルダ構造の下層に表示されます。

- 6 デバイスでの Adaptive Agent へのログインと使用の詳細については、[95 ページのセクション 5.4 「ZENworks Adaptive Agent の使用」](#)に進んでください。

5.3.2 エージェントの Linux デバイスへの展開

Linux デバイスを ZENworks サテライトとして使用するには、デバイスに Linux Adaptive Agent パッケージをインストールし、デバイスをサテライトとして設定する必要があります。デバイスをサテライトとして設定する方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「サテライト」を参照してください。

Linux Adaptive Agent パッケージを Linux デバイスに展開するには、次の手順に従います。

- 1 デバイスが必要な要件を満たしていることを確認します (『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「サテライト要件」参照)。
- 2 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。

`https://server/zenworks-setup`

`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。

パッケージ名	ターゲットアーキテクチャ	インストールタイプ	サイズ
デフォルトエージェント (x86_ネットワーク)	x86アーキテクチャ (32ビット)	ネットワーク (.NETが必要)	712 KB
デフォルトエージェント (x86_完了)	x86アーキテクチャ (32ビット)	スタンドアロン	68691 KB
デフォルトエージェント (x86_64_ネットワーク)	x86_64アーキテクチャ (64ビット)	ネットワーク (.NETが必要)	712 KB
デフォルトエージェント (x86_64_完了)	x86_64アーキテクチャ (64ビット)	スタンドアロン	89418 KB

各アーキテクチャ (32 ビットと 64 ビット) に 1 つのスタンドアロンパッケージがあります。

- 3 [サテライトサーバ] タブをクリックします。
- 4 使用したい展開パッケージの名前をクリックし、パッケージをデバイスのローカルドライブに保存し、`chmod 755 filename` コマンドの実行により、ファイルに実行可能権限を設定します。

このパッケージで使用できるオプションについては、[90 ページの「パッケージオプション」](#)を参照してください。

5 端末ウィンドウで、パッケージをダウンロードしたディレクトリに移動し、コマンド `/filename` を実行してデバイスでパッケージを起動します。ここで、`filename` は [ステップ 4](#) でダウンロードしたパッケージの名前です。

ZENworks コントロールセンターでは、デバイスは [デバイス] ページの \サーバフォルダ構造または \ワークステーションフォルダ構造の下層に表示されます。

インストール完了後、デバイスがネットワークに接続している場合は、エージェント内の ZENworks 管理デーモンが自動的に管理ゾーンに登録されます。

これらのコマンドは、`zac` コマンドラインユーティリティを使用して、デバイス上でローカルに実行できます。`xsession` セッションまたは `ssh` セッションを使用して、エージェントを Linux デバイスにインストールした場合は、`/opt/novell/zenworks/bin/zac` コマンドを入力して `zac` を実行する必要があります。ただし、再ログイン後は、完全なパスを入力しなくても、直接、コマンドラインから `zac` を実行できます。

パッケージオプション

コマンドラインから展開パッケージを起動する場合、次に表示されているオプションを使用できます。構文は次のとおりです。

```
package name option1 option2 ...
```

次に例を示します。

```
SatelliteServer.bin -k regkey1
```

-d target_path: 指定したターゲットパスにファイルを抽出します。デフォルトのターゲットパスは、`c:\opt\novell\zenworks\stage` です。

-h: ヘルプ情報を表示します。

-k: 管理ゾーンのデバイスの登録に使用する登録キー

-l: パッケージコンテンツの一覧表示のみ行います。パッケージの抽出も、インストールの実行も行いません。

-n: パッケージを抽出しますが、インストールは実行しません。

-v: 詳細画面ロギングをオンにします。

上記のオプションに加えて、パッケージを作成する際に使用できる 2 つの BUILDTIME オプション (`-f file` および `-o output file`) があります。これらのオプションは、Novell サポートから指示があった場合のみ使用してください。

5.3.3 ZENworks コントロールセンター展開タスク

展開タスクを使用して Adaptive Agent をインストールするには、目的のデバイスが ZENworks コントロールセンター内に表示されている必要があります。つまり、すでに [85 ページのセクション 5.1 「ネットワークデバイスの検出」](#) または [86 ページのセクション 5.2 「デバイスのインポート」](#) を完了していなければなりません。

展開タスクを作成するには、次の手順に従います。

1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。

[展開可能なデバイス] パネルには、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイス (インポート済みまたは検出済み) が一覧表示されます。

展開可能デバイス					詳細
削除 アクション ▼ 表示 ▼					
<input type="checkbox"/>	名前 ▲	IPアドレス	オペレーティングシステム	検出日	展開ステータス
<input type="checkbox"/>	192.168.9.240	192.168.9.240	不明なOS	2008/08/05	エラー
<input type="checkbox"/>	192.168.9.241	192.168.9.241	不明なOS	2008/08/05	エラー
<input type="checkbox"/>	rawhide.rawhide.sqa	192.168.9.1	不明なOS	2008/08/05	エラー
<input type="checkbox"/>	SYM6CLIENT	192.168.9.242	不明なOS	2008/08/05	エラー

1 - 4/4 25 ▼ 項目の表示

- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

[展開](#) > デバイスウィザードの展開

デバイスウィザードの展開
 ステップ 1: 展開タスク名の入力

名前: *

説明:

* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

- 3 次の表の情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	<p>タスクの名前を指定します。名前には次の文字を使用することはできません。 \ * ? : " ' < > ` % ~</p>
[デバイスの選択] ページ	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="656 367 1354 424">1. [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。 デフォルトビューには、管理ゾーンで検出されたすべてのデバイスが表示されます。 <li data-bbox="656 508 1354 543">2. デバイスを選択するには、➡ をクリックします。 <li data-bbox="656 550 1354 606">3. デバイスの選択が完了したら、[OK] をクリックして、[デバイスの選択] ページに戻ります。 選択したデバイスがリスト内に表示されます。
[アカウント情報の入力] > [データストアするアカウント情報を保存] フィールド	<p>[アカウント情報の入力] ページで、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを入力します。</p> <p>アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。</p> <p>保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。</p>
[アカウント情報の入力] ページ > [アカウント情報] フィールド	<p>アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="656 1066 1354 1152">1. [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。 Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップできる必要があります。次の資格情報が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="716 1264 1354 1438">◆ デバイスがドメインのメンバーである場合：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できます。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。 <li data-bbox="716 1453 1354 1509">◆ デバイスがドメインのメンバーでない場合：ローカル管理者グループ資格情報を使用する必要があります。 <li data-bbox="656 1524 1354 1581">2. [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。 <li data-bbox="656 1593 1354 1629">3. [OK] をクリックして資格情報を保存します。 <p>環境によっては、資格情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけ資格情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初の資格情報を使用します。</p>

[スケジュールの選択] ページ

[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか1つのスケジュールを選択します。

スケジュールなし：スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。

日付特有：タスクを実行する日付を1つまたは複数指定します。

繰り返し：タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。

スケジュールの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド

展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。

[Windows プロキシの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にしません] フィールド

このオプションは、管理ゾーンに設定されている [Windows プロキシ設定] を上書きしてタスクの設定を変更する場合に選択します。

Windows プロキシは、主に管理対象の Windows デバイスで展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ用に使用されます。ただし、プライマリサーバと異なるサブネットにデバイスを展開する場合は、Windows サーバ用に Windows プロキシを使用することもできます。

ZENworks サーバと Windows プロキシ間でやりとりされる検出のアカウント情報などの情報を保護するために、ZENworks サーバと Windows プロキシ間の SSL を使用したセキュアな接続が採用されています。


[Windows プロキシの選択] ページ > [Windows プライマリサーバの Windows プロキシを使用 >] フィールド

このオプションは、Windows プライマリサーバの代わりに Windows プロキシを使用して展開タスクを実行する場合に選択します。

展開については、Windows ファイアウォール構成設定でファイルとプリンタの共有を例外として追加する必要があります。デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。ターゲットデバイスが、展開が実行されているプライマリサーバとは別のサブネットにある場合、プライマリサーバの IP アドレスを例外として追加する必要もあります。ただし、Windows プロキシをターゲットデバイスと同じサブネットで使用している場合は、Windows ファイアウォール例外の範囲を変更する必要はありません。

Windows プロキシ：Linux サーバまたは Windows サーバの代わりに、展開タスクを実行する管理対象 Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。

Windows プロキシタイムアウト：ZENworks サーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定されたタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。

[ウィザード] ページ	詳細
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	<p>管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、デバイスでの ZENworks Adaptive Agent のインストールに使用する展開パッケージを選択します。</p> <p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがよく分からない場合には、すべてとしてターゲットのアーキテクチャを持つパッケージを選択し、32 ビットおよび 64 ビットのプラットフォームに適用します。選択したパッケージがプライマリサーバから削除されている場合には、デフォルトの展開パッケージが展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [Specify Agent Installation Folder(エージェントインストールフォルダの指定)] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスのディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定されていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクトリまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにインストールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してください。</p> <p>注： 指定したディレクトリが作成できない場合、エージェントはデフォルトの場所にインストールされます。</p>
一般オプションページ > [再起動オプション]	<p>ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、デバイスを再起動して Adaptive Agent が機能するようする必要があります。以下を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 必要な再起動オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 直ちに： Adaptive Agent のインストール後に直ちに再起動するには、[直ちに] を選択してデバイスに適用します。 手動： ユーザの都合でデバイスを手動で再起動できるようにするには、[手動] を選択します。 スケジュール済： 指定した時間でデバイスを再起動するには、[スケジュール済み] を選択します。スケジュールのフィールドに情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> 開始日：  をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。 開始時刻： イベントを開始する時刻を指定します。 協定世界時 (UTC) を使用： 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯にいますとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。 (オプション) 再起動のプロンプトメッセージを表示しない場合には、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。

[ウィザード] ページ	詳細
[登録キーの追加] ページ	<p>(オプション) 展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールがフォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。</p> <p>登録キーおよび登録ルールの詳細については、27 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」を参照してください。</p>
[展開前 / 後] ページ	<p>(オプション) Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。</p> <p>コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェントに渡されます。プレエージェントでは、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。</p> <p>展開前コマンドと展開後コマンドの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>

- 4 ログインおよび Adaptive Agent の使用の詳細については、次のセクション、「[ZENworks Adaptive Agent の使用](#)」に進んでください。

zman ユーティリティで deployment-task-create コマンドを使用して展開タスクを作成することもできます。詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドライン ユーティリティリファレンス](#)』の「[展開コマンド](#)」を参照してください。

5.4 ZENworks Adaptive Agent の使用

次のセクションでは、ログインおよび ZENworks Adaptive Agent の使用に役立つ情報を提供します。

- ◆ [95 ページのセクション 5.4.1 「管理ゾーンへのログイン」](#)
- ◆ [96 ページのセクション 5.4.2 「Adaptive Agent ビューの移動」](#)
- ◆ [100 ページのセクション 5.4.3 「Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化」](#)
- ◆ [103 ページのセクション 5.4.4 「管理対象デバイスのサテライトへの昇格」](#)

5.4.1 管理ゾーンへのログイン

管理対象デバイスでオペレーティングシステムを起動するときに、Adaptive Agent が起動されて、デバイスに割り当てられているすべてのバンドルおよびポリシーが使用可能になります。ユーザに割り当てられているバンドルおよびポリシーを使用可能にするためには、ユーザは管理ゾーンにログインする必要があります。

Adaptive Agent は Windows ログインまたは Novell ログインクライアントと統合し、ユーザにシングルログインを提供します。ユーザが Windows または Novell クライアントで eDirectory または Active Directory のアカウント情報を入力した場合、ユーザのアカウント

情報が ZENworks ユーザソースのものと一致すると、管理ゾーンにログインします。一致しない場合、別の Adaptive Agent ログイン画面が表示され、ユーザに正しいアカウント情報を入力するよう求めます。

たとえば、あるユーザが 2 つのディレクトリツリー Tree1 と Tree2 でアカウントを持っているとします。Tree1 は、管理ゾーンのユーザソースとして定義されていますが、Tree2 は定義されていません。そのユーザが Tree1 にログインすると、自動的に管理ゾーンにログインします。一方、そのユーザが Tree2 にログインした場合は、Adaptive Agent のログイン画面が表示され、Tree1 のアカウント情報を入力するよう求められます。

5.4.2 Adaptive Agent ビューの移動

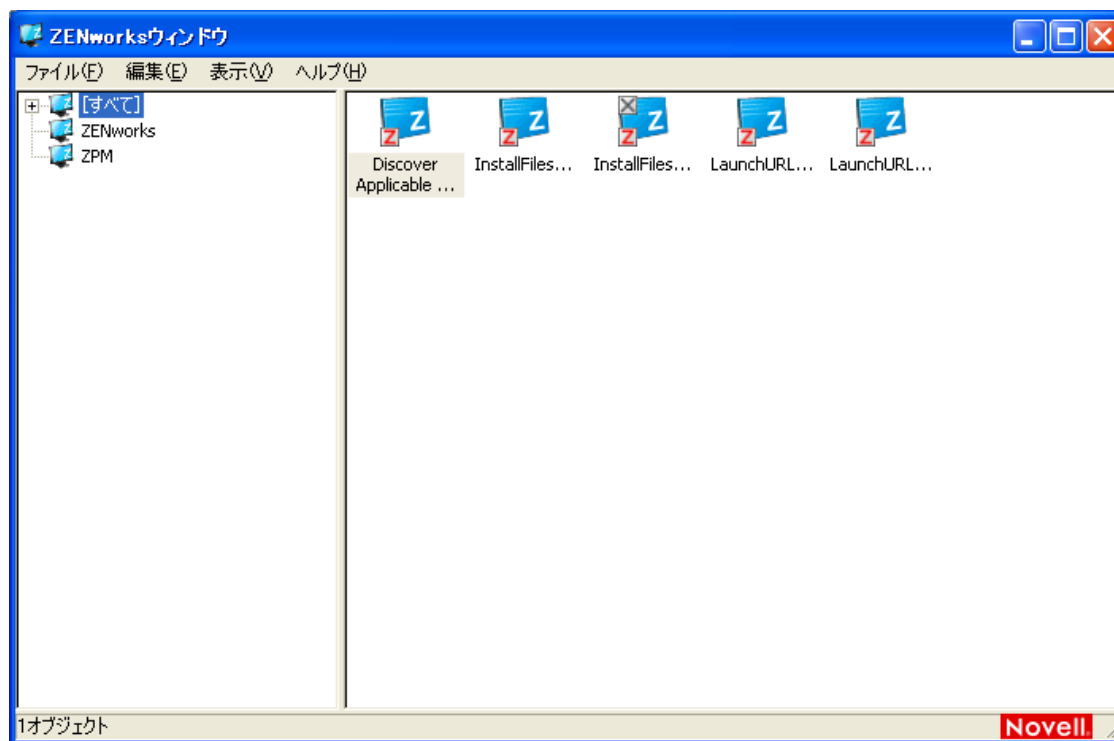
Adaptive Agent には、次の 3 つのビューがあります。

- ◆ 96 ページの「ZENworks Window」
- ◆ 97 ページの「ZENworks Explorer」
- ◆ 99 ページの「ZENworks Icon」

ZENworks Window

ZENworks Window は、バンドルへのアクセスを提供するスタンドアロンのウィンドウです。このウィンドウは [スタート] メニューから起動します ([スタート] メニュー] > [プログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Window])。

図 5-1 ZENworks Window



[ZENworks Window] の左ペインには、次の項目が表示されます。

- ◆ **[すべて] フォルダ** : バンドルが配置されているフォルダにかかわらず、配布されているバンドルすべてが表示されます。
- ◆ **[ZENworks] フォルダ** : 別のフォルダに割り当てられていないバンドルすべてが表示されます。バンドルのデフォルトフォルダは [ZENworks] フォルダです。ただし、管理者はバンドルを整理するために追加フォルダを作成したり、ZENworks フォルダを名前変更したりすることもできます。

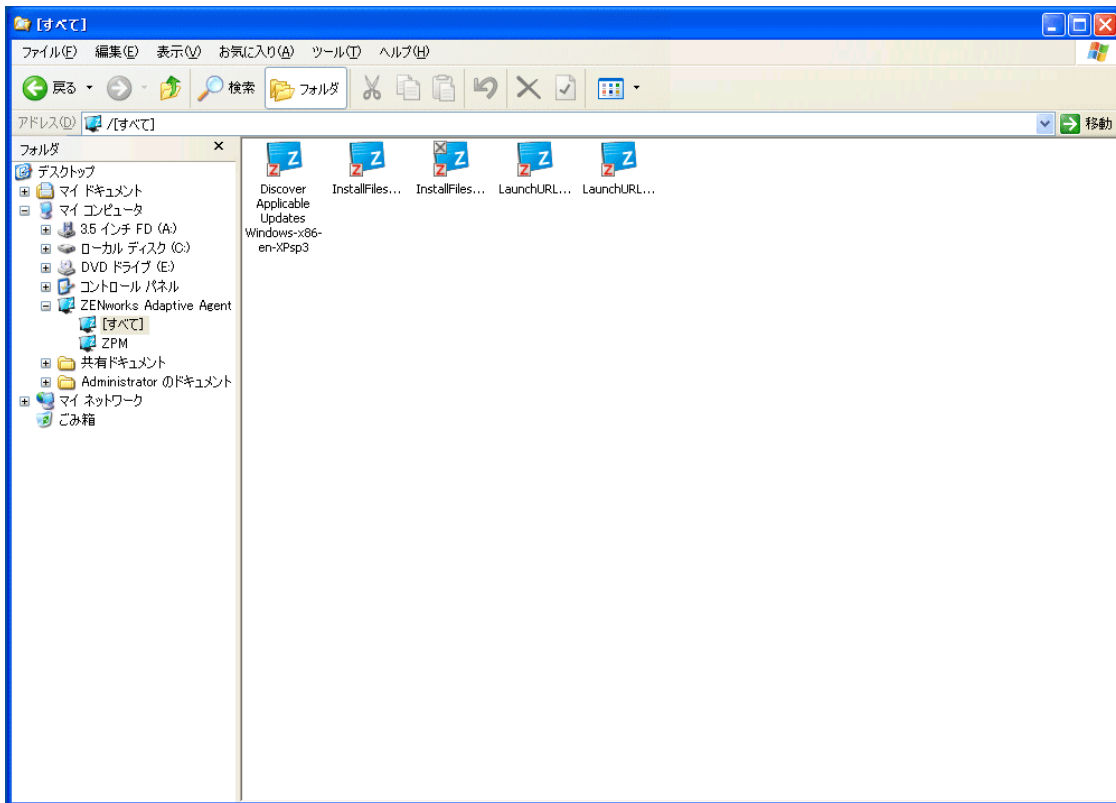
左ペインでフォルダを選択すると、右ペインにフォルダ内に含まれるバンドルが表示されます。次の操作を行うことができます。

- ◆ バンドルをインストールするか、すでにインストール済みのアプリケーションを起動する。
- ◆ バンドルのプロパティを表示する。プロパティには、バンドルの説明、バンドルのヘルプ担当者についての情報、バンドルを使用できる時間、バンドルに設定されたシステム要件などが含まれます。
- ◆ インストールしたアプリケーションを修復する。
- ◆ アプリケーションをアンインストールする。これは管理者が制御する機能で、有効になっていない場合もあります。

ZENworks Explorer

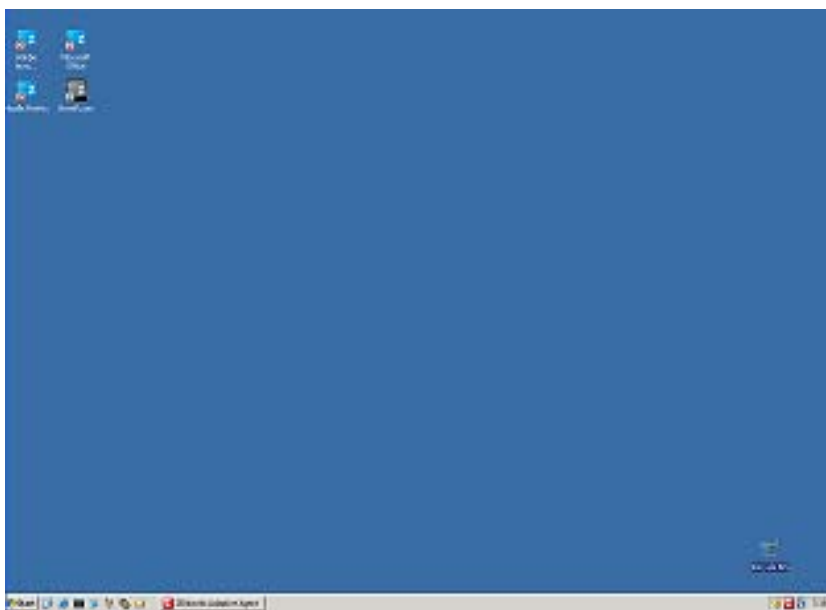
ZENworks Explorer は、Windows エクスプローラ用の拡張機能で、Windows エクスプローラ、デスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、および通知領域 (システムトレイ) にバンドルを表示できるようになります。次の図は、Windows エクスプローラに表示されるバンドルを示しています。

図 5-2 ZENworks Explorer - Windows エクスプローラ用ビュー



次の図は、デスクトップに表示されるバンドルを示しています。

図 5-3 ZENworks Explorer - Windows デスクトップ用ビュー



ZENworks Explorer でも、[ZENworks Window] と同じタスクをバンドルに対して実行できます。

ZENworks Icon


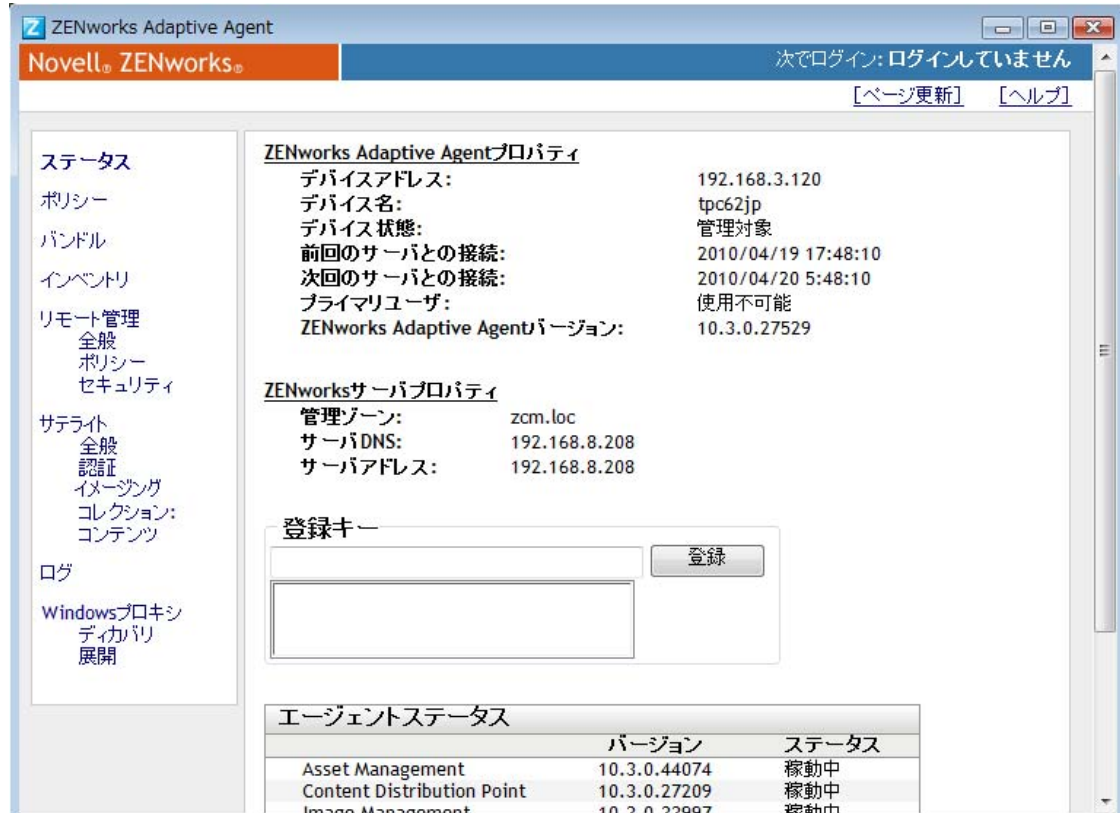
ZENworks Icon  は、Windows の (システムトレイ) にあります。アイコンをダブルクリックすると、ZENworks Adaptive Agent のプロパティを表示できます。

図 5-4 ZENworks Adaptive Agent プロパティ



プロパティウィンドウの左側のナビゲーション画面には、Adaptive Agent のステータスおよび各機能のリンクが含まれています。

- ◆ **ステータス** : エージェントが前回 ZENworks サーバに接続した時間や、Agent 機能が実行中であるかどうかなどの情報が表示されます。
- ◆ **ポリシー** : デバイスおよびログインユーザに割り当てられているポリシーが表示されます。また、ポリシーが有効であるかどうかも表示されます。
- ◆ **バンドル** : デバイスおよびログインユーザに割り当てられているバンドルが表示されます。また、各バンドルの現在のインストールステータス (使用可能、ダウンロード中、インストール中など) およびバンドルが有効 (デバイスが配布の要件を満たしている) かどうかも表示されます。
- ◆ **インベントリ** : デバイスのインベントリ情報が表示されます。ハードドライブ、ディスクドライブ、ビデオカードの製造元やモデルなどのハードウェアの詳細を表示できます。また、インストール済み Windows ホットフィックスとパッチ、およびインストール済みソフトウェア製品のバージョン番号と場所などのソフトウェアの詳細も表示できます。
- ◆ **リモート管理** : 現在接続しているリモートオペレータおよびデバイスで有効になっているリモート管理ポリシーの設定に関する情報が表示されます。また、管理セッションを開始したり、セッションのセキュリティ設定を制御したりすることもできます。

- ◆ **サテライト** : **サテライト**として使用するデバイスのサテライト役割情報を表示します。サテライト役割には、収集、コンテンツ、およびイメージングなどがあります。この機能は、ZENworks 管理者がデバイスをサテライトとして使用している場合にのみ表示されます。
- ◆ **ログ** : ログファイルの場所、エージェントのログファイルがアップロードされる ZENworks サーバ、および次回ログのアップロードが予定されているスケジュールなど、Adaptive Agent のログファイルに関する情報が表示されます。また、記録されたメッセージの重大度レベルを決めることもできます。
- ◆ **Windows プロキシ** デバイスが ZENworks プライマリサーバの Windows プロキシとして機能するときに、デバイスで実行したディスカバリアクティビティおよび展開アクティビティの結果を表示します。

5.4.3 Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化

ZENworks Adaptive Agent は、次の Configuration Management 機能を提供します。

- ◆ アセット管理 (アセット管理をアクティブ化した場合にインストールされる)
- ◆ バンドル管理 (デフォルトでインストール済み)
- ◆ イメージ管理 (デフォルトでインストール済み)
- ◆ インベントリ管理 (デフォルトでインストールされる)
- ◆ パッチ管理 (パッチ管理が有効な場合にインストール済み)
- ◆ ポリシー管理 (デフォルトでインストール済み)
- ◆ リモート管理 (デフォルトでインストール済み)
- ◆ ユーザ管理 (デフォルトでインストールされていない)

デフォルトでは、デバイスにすべてのモジュールがインストールされます。ただし、インベントリ管理以外のモジュールは、エージェントの展開前後に、管理ゾーン、デバイスフォルダ、およびデバイスの各レベルで、アンインストールしたり、無効化したり、有効化したりすることができます。

次のセクションではそれらの手順について説明します。

- ◆ [100 ページの「ZENworks Desktop Management Agent との共存」](#)
- ◆ [101 ページの「エージェント機能のカスタマイズ」](#)

ZENworks Desktop Management Agent との共存

ZENworks 10 Adaptive Agent は、従来の ZENworks 7 Desktop Agent をインストールしているデバイスにインストールできます。従来の ZENworks Desktop Agent は、ZENworks 7 Desktop Management に付属しています。

ZENworks Adaptive Agent と従来の ZENworks Desktop Agent は同一デバイス上に共存できますが、ZENworks 10 Asset Management と従来の ZENworks Desktop Management との併用をサポートするためだけに共存できます。ただし、従来の ZENworks Desktop Agent がインストールされているデバイスに Adaptive Agent を展開する際に、アセット管理、インベントリ管理、ポリシー管理、およびリモート管理以外の Adaptive Agent 機能をインストールする場合は、Adaptive Agent によって従来の ZENworks Desktop Agent が削除されてから、それらの機能がインストールされます。

ZENworks Adaptive Agent と従来の ZENworks Desktop Agent の共存の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

エージェント機能のカスタマイズ

ZENworks Adaptive Agent を管理ゾーンレベルで選択された機能とともに展開します。管理ゾーンレベルで選択された機能は、ライセンスの期限が切れたか非アクティブ化された製品に属する場合のみ、インストールされません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	システム更新	アセット管理
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ					
ローカルデバイスのログ					
デバイスの更新スケジュール					
ZENworks エージェント					
システム更新エージェント					
登録					
ZENworks Explorer 設定					
システム変数					
起動前サービス					
プライマリユーザ					
プライマリワークステーション					
ダイナミックグループの更新スケジュール					
Wake-on-LAN					
リモート管理					
ディスクバリエーションと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートサービス					
アセット管理					
バッチ管理					

- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、次に [ZENworks エージェント] をクリックします。

ZENworksエージェント	
ZENworksエージェントを設定します。	
全般	
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにエージェントのアンインストールを許可します	
キャッシュ保持期間:	336 時間
キャッシュオフラインのしきい値:	90 日
ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:	20
再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加):	10 秒
再試行要求の最大待機時間:	20 秒
エージェント機能	
バンドル管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ポリシー管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
アセット管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
イメージ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
パッチ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
リモート管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ユーザ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
再起動動作の選択(必要な場合):	
<input checked="" type="radio"/> ユーザに再起動を求める(デフォルト)	
<input type="radio"/> デバイスを再起動しない	
<input type="radio"/> 強制的にデバイスを再起動	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="リセット"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

3 エージェント機能パネル:

- インストールしたくない機能がある場合は、その機能の横の [インストール済み] の選択を解除します。選択した機能は、デバイスにインストールされません。すべての機能の選択解除を選択した場合は、コアエージェントだけがインストールされます。
- インストールするが無効にしたい機能がある場合は、その機能の [インストール済み] と [無効] を選択します。無効にした機能は、現在の管理対象デバイスからアンインストールされません。機能はデバイスにインストールされますが、機能しません。

バンドル管理、リモート管理、またはユーザ管理機能をインストールするには、デバイスの再起動が必要です。イメージ管理機能をインストールする際、Windows 2008 および Windows Vista の場合にのみ再起動が必要です。選択した再起動オプションに基づいて、デバイスの再起動を求められます。

これで、手動またはタスクを使用して、デバイスへのエージェントの展開に進むことができます。

タスクの使用によるエージェントの展開方法については、「[エージェントの展開のためのタスクの使用](#)」を参照してください。手動でエージェントを展開する方法については、「[手動でのエージェントの展開](#)」を参照してください。

4 変更内容を保存するには、[適用] をクリックします。

5.4.4 管理対象デバイスのサテライトへの昇格

サテライトは管理対象デバイスで、認証、情報収集、コンテンツ配布、イメージングなど、ZENworks® プライマリサーバが通常実行する役割の一部を実行できます。サテライトには、任意の管理対象の Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) または Linux デバイスを使用できますが、プライマリサーバを使用することはできません。サテライトを設定する際には、サテライトが実行する役割を指定します (認証、コレクション、コンテンツ、またはイメージング)。サテライトは、ZENworks 10 Configuration Management フレームワークのスナップインとなるサードパーティ製品によって追加される役割を実行することもできます。

サテライトの詳細と管理対象デバイスをサテライトに昇格する方法については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「サテライト」を参照してください。

システムメッセージおよびレポート

6

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management を使用すると、管理ゾーン内のアクティビティをシステムメッセージおよびレポートを通じて監視できます。

- 105 ページのセクション 6.1 「システムメッセージの参照」
- 108 ページのセクション 6.2 「ウォッチリストの作成」
- 109 ページのセクション 6.3 「レポートの生成」

6.1 システムメッセージの参照

ZENworks システムでは、ソフトウェアの配布およびポリシーのアプリケーションなどのアクティビティを監視のサポートをするため、通常のメッセージ(情報)、警告メッセージ、およびエラーメッセージが生成されます。

各 ZENworks サーバおよび ZENworks Adaptive Agent は、関連付けられているアクティビティのログを作成します。メッセージは ZENworks コントロールセンターのさまざまなエリアに表示されます。

- **システムメッセージログ** : システムメッセージログは、[システム情報] ページ ([環境設定] タブ) にあり、ゾーン内のすべての ZENworks サーバおよび Adaptive Agents からのメッセージを表示します。
- **デバイスメッセージログ** : デバイスメッセージログは、サーバまたはワークステーションの [サマリ] ページにあり、ゾーン内の ZENworks サーバまたは Adaptive Agent によって生成されたメッセージを表示します。たとえば、Workstation1 のメッセージログが、Workstation1 上の Adaptive Agent によって生成されたすべてのメッセージを含みます。
- **コンテンツメッセージログ** : コンテンツメッセージログはバンドルまたはポリシーの [サマリ] ページにあり、バンドルまたはポリシーに関連付けられている ZENworks サーバまたは Adaptive Agent メッセージのみを表示します。たとえば、Bundle1 のメッセージログが、異なる 3 つの ZENworks サーバおよび異なる 100 の Adaptive Agents によって生成されたメッセージを含みます。

6.1.1 メッセージのサマリの参照

ゾーン内のサーバ、ワークステーション、バンドル、およびポリシーに対して生成されたメッセージ数を示す概要を表示できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。

Novell ZENworks 10 Configuration Management console screenshot showing the Message Summary panel. The panel displays a table of objects with their status and counts. The 'Servers' row shows 2 critical messages (red X), 0 warning messages (yellow diamond), and 1 normal message (green circle). The 'Workstations' row shows 0 critical, 1 warning, and 3 normal messages. The 'Policies' row shows 0 critical, 0 warning, and 0 normal messages. The 'Bundles' row shows 0 critical, 0 warning, and 157 normal messages. The 'Device Hotlist' shows 0 critical, 0 warning, and 25 normal messages for 'zendoc2a'. The 'Asset Management' panel shows 0 catalog products, 12 detected products, 0 licensed products, 0 contracts, and 0 documents.

[メッセージ概要] パネルには、管理ゾーンのすべてのサーバ、ワークステーション、ポリシー、およびバンドルのステータスが表示されます。たとえば、2つのサーバで未承認の重大なメッセージ(当方または他方の管理者がまだ未確認のメッセージ)がある場合、**X**カラムに数字の2が表示されます。または、警告メッセージ付きの3つのバンドルと通常メッセージの5つのバンドルがある場合、**◇**カラムに数字の3が表示され、**●**カラムに「5」と表示されます。概要には次のような機能があります。

- root フォルダを表示するオブジェクトタイプをクリックします。たとえば、[サーバ] をクリックして、サーバのルートフォルダを表示します(/サーバ)。
- 任意のオブジェクトタイプで、いずれかのステータスカラム (**X** **◇** **●**) の数字をクリックすると、現在そのステータスであるオブジェクトがすべて一覧表示されます。たとえば、通常ステータスのサーバのリストを確認するには、**●**カラムで数字をクリックします。
- オブジェクトタイプについては、[合計] 列でメッセージ数をクリックして、重大、警告、または通常メッセージのあるオブジェクトすべてを表示します。たとえば、サーバの [合計] メッセージ数をクリックして、何らかのメッセージがあるサーバをすべてリスト表示します。

6.1.2 メッセージの承認

メッセージは、承認されるまではメッセージログにあります。メッセージは個別に、またはメッセージログ内のすべてのメッセージを一度に承認することができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 ZENworks サーバが見つかるまで [Servers] フォルダを移動します。
- 3 サーバをクリックして詳細を表示します。



4 [サマリ] タブで、[メッセージログ] パネルを見つけます。

[メッセージログ] パネルは、ZENworks サーバによって生成されたすべてのメッセージ(情報、警告、およびエラー)を一覧表示します。次の表は、メッセージを承認および削除するためのさまざまな方法を説明しています。

タスク	手順	追加詳細
メッセージの承認	<ol style="list-style-type: none"> 1. メッセージをクリックして、[メッセージ詳細情報] ダイアログボックスを表示します。 2. [承認] をクリックします。 	<p>メッセージを承認しない場合は、[終了] をクリックして、ダイアログボックスを却下します。これによって、メッセージは [メッセージログ] リストにとどまります。</p>
すべてのメッセージを承認する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左のナビゲーションペインにある [タスク] リストで、[すべてのメッセージを承認] をクリックします。 	
承認または未承認のメッセージすべてを表示する	<ol style="list-style-type: none"> 1. [詳細] ボタンをクリックして、[メッセージログの編集] ページを表示します。 	<p>承認および未承認のメッセージすべてを表示するのに加え、特定のステータスまたは日付のメッセージのみを表示したり、メッセージの詳細を表示したり、メッセージを承認したりすることもできます。</p> <p>そのページにあるタスクの実行についての固有情報については、[メッセージログの編集] ページで [ヘルプ] ボタンをクリックします。</p>
メッセージの削除	<ol style="list-style-type: none"> 1. メッセージをクリックして、[メッセージ詳細ログ] ダイアログボックスを表示します。 2. [削除] をクリックします。 	<p>メッセージを削除すると、ZENworks システムからメッセージが完全に削除されます。</p>



また、zman ユーティリティで `messages-acknowledge` コマンドを使用して、デバイス、バンドル、およびポリシーに関連付けられたメッセージを承認することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「メッセージコマンド」を参照してください。

6.1.3 詳細の参照場所

システムメッセージの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「メッセージログ」を参照してください。

6.2 ウォッチリストの作成

ステータスを詳細に監視したいデバイス、バンドル、またはポリシーがある場合、これらをウォッチリストに追加できます。ウォッチリストは次の情報を提供します。

- ◆ **エージェント**: サーバおよびワークステーションの場合、デバイスの ZENworks Adaptive Agent が現在接続されているか (●)、または接続解除されているか (○) かどうかが表示されます。
- ◆ **⚠**: オブジェクトに重大なメッセージがあるかどうかを表示します。
- ◆ **タイプ**: オブジェクトのタイプを表すアイコンを表示します。たとえば、バンドルは  アイコンを備え、Windows バンドルであることを示す場合があります。また、デバイスは  を備え、サーバであることを示す場合があります。アイコンの上にマウスを合わせると説明が表示されます。

- ◆ **名前:** オブジェクトの名前を表示します。名前をクリックしてオブジェクトのメッセージログに移動することができます。

デバイス、バンドル、またはポリシーをウォッチリストに追加するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。



- 2 [ウォッチリスト] パネルで、[追加] をクリックしてからリストに追加したいオブジェクトタイプ (デバイス、バンドル、またはポリシー) を選択します。
- 3 選択ダイアログボックスで、目的のオブジェクトを選択し、[OK] をクリックしてウォッチリストに追加します。

たとえば、サーバを追加するには、サーバを参照して選択します。

オブジェクトは削除するまでウォッチリスト内に残ります。

6.3 レポートの生成

ZENworks Configuration Management は、ZENworks Reporting Server を使用して、管理ゾーンのレポートを生成します。事前定義済みのレポートまたはカスタムレポートを使用できます。

レポートにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。



- 2 [ZENworks Reporting Server] パネルで、[ZENworks Reporting Server InfoView] をクリックして ZENworks Reporting Server InfoView を起動します。[ZENworks Reporting Server InfoView] ページの初期画面が [ドキュメントリスト] として表示されます。次の表は、ZENworks Reporting Server InfoView で実行可能な各種のタスクについて説明しています。

タスク	手順
事前定義されたレポートの生成	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポートを生成するのに使用するレポートの定義が見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダを移動します。 2. [アクション] > [スケジュール] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[スケジュール] を選択します。
カスタムレポートの生成	<ol style="list-style-type: none"> 1. [InfoView] ツールバーで、[新規] > [Web インテリジェンスドキュメント] の順にクリックします。[ユニバース] ペインが表示されます。 2. 表示するユニバースをクリックします。たとえば、ZENworks ユニバースを表示するには、[ZENworks] をクリックします。 3. [データ] タブで、レポートを作成するユニバースオブジェクトに移動し、オブジェクトを右側のウィンドウにドラッグします。 4. [クエリの実行] をクリックします。 5. レポートを [カスタムレポート] フォルダに保存します。
レポートの以前のインスタンスの表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表示したい以前のインスタンスが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダを移動します。 2. [アクション] > [履歴] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[履歴] を選択します。

タスク	手順
レポートの最新のインスタンスの表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表示したい最新のインスタンスが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダを移動します。 2. [アクション] > [最新のインスタンスの表示] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[最新のインスタンスの表示] を選択します。
レポートのプロパティの表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロパティを表示したいレポートが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダを移動します。 2. [アクション] > [プロパティ] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[プロパティ] を選択します。

zman ユーティリティで、report-generate-now コマンドを使用してレポートを管理することもできます。また、他のレポートコマンドも使用できます。詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「レポートコマンド」を参照してください。

レポートの詳細については、『[ZENworks 10 Configuration Management System Reporting リファレンス](#)』を参照してください。

マニュアルの更新

A

このセクションには、この『[管理クイックスタートリファレンス](#)』(Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP3 用)で行われたマニュアル内容の変更に関する情報が記載されています。ドキュメントの最新の更新情報をここで入手できます。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

- ◆ [113 ページのセクション A.1 「2010 年 3 月 30 日 : SP3 \(10.3\)」](#)

A.1 2010 年 3 月 30 日 : SP3 (10.3)

次のセクションが更新されました。

場所	更新
95 ページのセクション 5.4 「ZENworks Adaptive Agent の使用」	サテライトに関する情報を 100 ページのセクション 5.4.3 「Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化」 から削除し、新しく作成した 103 ページのセクション 5.4.4 「管理対象デバイスのサテライトへの昇格」 に追加しました。
(100 ページ) ZENworks Desktop Management Agent との共存	このセクションを追加して、ZENworks Desktop Agent がインストール済みのデバイスで ZENworks Adaptive Agent を使用する場合の情報を記載しました (この ZENworks Desktop Agent は ZENworks 7 Desktop Management または ZENworks for Desktops 4x)。
109 ページのセクション 6.3 「レポートの生成」	ステップ 2 を追加して、カスタムレポートの生成時にユニバースを選択するための情報を記載しました。

